

平成30年度

大川活用プロジェクト活動報告書

～速野学区ふるさとづくりワークショップ～



「速野庄己爾乃」

美崎自治会、立命館大学学生生活動団体 haconiwa
守山市、京都大学東南アジア地域研究研究所



目次

はじめに

「速野学区ふるさとづくりワークショップ資料	1
1. 開催内容	2
2. 資料	
①速野学区概要	3- 8
②速野学区まるごと活性化の取組	9-12
③各学区プロジェクトの取組状況	13-28
④夏休み大川自由研究室	29-38
⑤守山市の地域振興	39-55
⑥若者が見た市北部地域の魅力	56-66
⑦フォーラム・グループ討議のまとめ	67-70

おわりに

はじめに

大川活用プロジェクトが毎年主催してきた大川フォーラムは、平成 30 年度は、今後の活動の展開を視野に入れて、「速野学区まるごと活性化」の取組との連動により、速野学区ふるさとづくり委員会主催、速野学区自治会長会後援による「速野学区ふるさとづくりワークショップ」として開催されました。

ワークショップのテーマは「守山市北東部地域の魅力とこれからを語る！！」であり、主旨は「速野地域は、県内有数の道路交通の要衝であることや人口増加が続き児童数も多いこと、都市近郊農業や琵琶湖漁業の拠点であること、ホテルや大型の集客施設が立地しているなど恵まれた地域特色を有するとともに、まるごと活性化などの地域活動も盛んです。そこで、これらの価値と意義を今一度確認しつつこれからの地域づくりについて多様な視点から討議し、その成果を広く発信することとします」でした。

ワークショップでは、以下の報告がありました。

- ①速野学区のまるごと活性化の取り組み（地域代表）
- ②守山市の地域政策（守山市）
- ③若者が見た市北部地域の魅力と期待（立命館大学学生団体 haconiwa）

それを受けて、グループ別討議のセッションが設けられ、活発な議論が交わされました。学区内の多様な分野からの参加者のもと、グループに分かれこれからの速野づくりを未来志向の視点から討議されました。その結果は、「まちづくりをより活発にするためには！」、「地域で子どもたちの育ちを応援するためには！」「地域の産業、企業そして住民が連携するためには！」として、本活動報告書の巻末に議論の結果が掲載されているので、ぜひ、お読みください。ワークショップへ参加された方々、発表された方々に深く感謝致します。

大川活用プロジェクト

速野学区ふるさとづくりワークショップ資料



開催日 2月23日(土) 13:00~16:30
開催場所 速野会館
主催 速野学区ふるさとづくり委員会
共催 立命館大学学生団体 haconiwa
京都大学東南アジア地域研究研究所
守山市
後援 速野学区自治会長会

開催内容

テーマと開催主旨

- ・テーマ 「守山市北東部地域の魅力とこれからを語る！！」
- ・主旨 速野地域は、県内有数の道路交通の要衝であることや人口増加が続き児童数も多いこと、都市近郊農業や琵琶湖漁業の拠点であること、ホテルや大型の集客施設が立地しているなど恵まれた地域特色を有するとともに、まるごと活性化などの地域活動も盛んです。そこで、これらの価値と意義を今一度確認しつつこれからの地域づくりについて多様な視点から討議し、その成果を広く発信することとします。

プログラム

- ・ 13:30 開会あいさつ
- ・ 13:45 報告
 - ①速野学区のまるごと活性化の取り組み（地域代表）
 - ②守山市の地域政策（守山市）
 - ③若者が見た市北部地域の魅力と期待
(立命館大学学生団体 haconiwa)
- ・ 14:30 休憩
- ・ 14:40 グループ別討議
 - 【討議方法と内容の確認】伊藤潔（大川活用プロジェクト世話人）
 - 【グループ別討議】学区内の多様な分野からの参加者のもと、グループに分かれこれからの速野づくりを未来志向の視点から討議します。
- ・ 16:00 報告（グループ討議結果）
- ・ 16:30 閉会

速野学区

はやのがっく



▲田園風景



▲びわこ地球市民の森



▲琵琶湖大橋

速野学区はこんなまちです

■位置

- 速野学区は、市の西部に位置し、学区の西側は約9kmにわたって琵琶湖に接しています。
- レインボーロード（琵琶湖大橋取付道路）の沿線は市街化区域であり、宅地開発が進むとともに、湖岸は、美術館、公園、ホテル、ゴルフ場などが立ち並ぶ観光リゾート地となっています。内陸部は市街化調整区域であり、田園地帯の中に古くからの集落が点在しています。

■成り立ち

- 古くから、旧野洲川などの豊富な水資源に支えられた農業地域であり、また琵琶湖岸では伝統的漁法である魰（えり）漁をはじめとした漁業が盛んでした。
- 昭和39年に琵琶湖大橋が開通し、市の中心部から遠く離れたのどかな田園地帯であった速野学区は、本市の北の玄関口という新たな顔を持つようになり、人口の増加、宅地開発の進展、大規模小売店やリゾート・レクリエーション施設などの立地によって、急速な発展を遂げました。

■速野村の成立

- 速野地域は、明治4年の廃藩置県の結果大津県になり、同5年に滋賀県となりました。開発東中、開発西、木浜、水保、今浜、新庄、服部、戸田、立花などを合わせて野洲郡8区に編成されました。明治7年から8年には、開発東中、開発西と川崎新田が洲本村、木浜と木浜新田が木浜村、水保と水保新田が水保村、今浜と今浜新田が今浜村になりました。
- 明治12年の郡区町村編成法の実施で、それぞれの村に戸長役場が設けられています。明治18年、連合戸長役場制により洲本、木浜、水保、今浜の4村が連合して洲本の照久寺台所に連合戸長役場をおきました。そして、明治22年の町村制施工により、これが速野村になりました。
- 役場のあった洲本の式内社己爾乃神社の由緒に、「速野庄己爾乃」とあることから速野村と称するようになったようです。



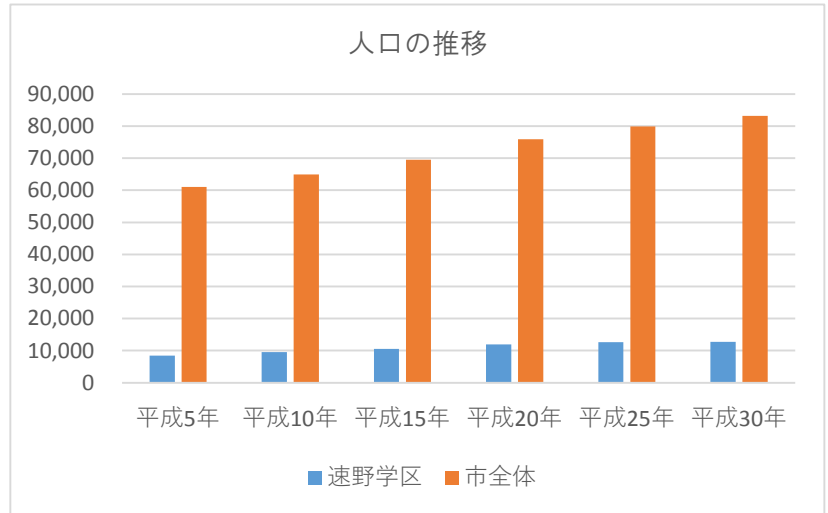
■人の動き

○人口は12,750人（平成30年）で、市全体の15%を占めます。20年前に比べて約1.3倍に増えており、市全体を上回る高い増加率を示しています。

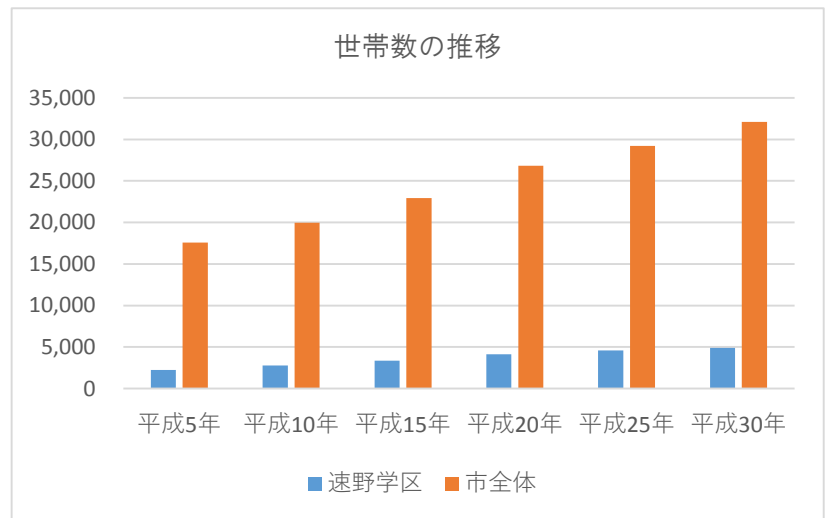
○年齢別にみると、0～14歳が約17%、65歳以上は約21%であり、市全体の構成比と同じような状況です。

○人口が増加しているのは主に市街化区域であり、市街化調整区域では人口の減少、少子高齢化が進んでいます。

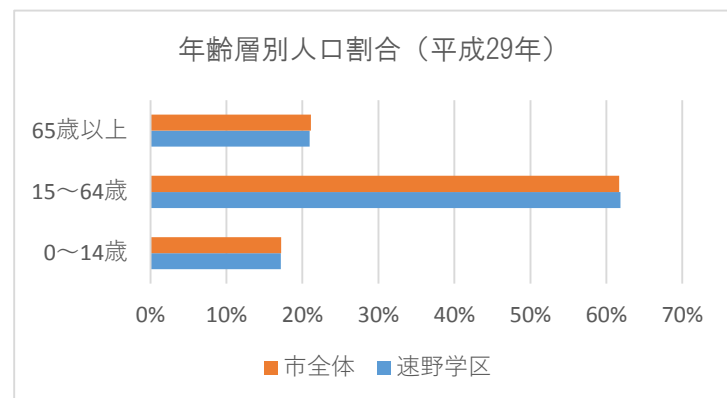
人口数	速野学区	市全体
平成5年	8,396	61,075
平成10年	9,565	64,926
平成15年	10,585	69,512
平成20年	11,928	75,929
平成25年	12,677	79,866
平成30年	12,750	83,157



世帯数	速野学区	市全体
平成5年	2,246	17,587
平成10年	2,778	19,953
平成15年	3,345	22,947
平成20年	4,102	26,842
平成25年	4,587	29,235
平成30年	4,875	32,090



年齢層別	速野学区	市全体
0～14歳	2,190	14,196
15～64歳	7,887	50,890
65歳以上	2,672	17,411

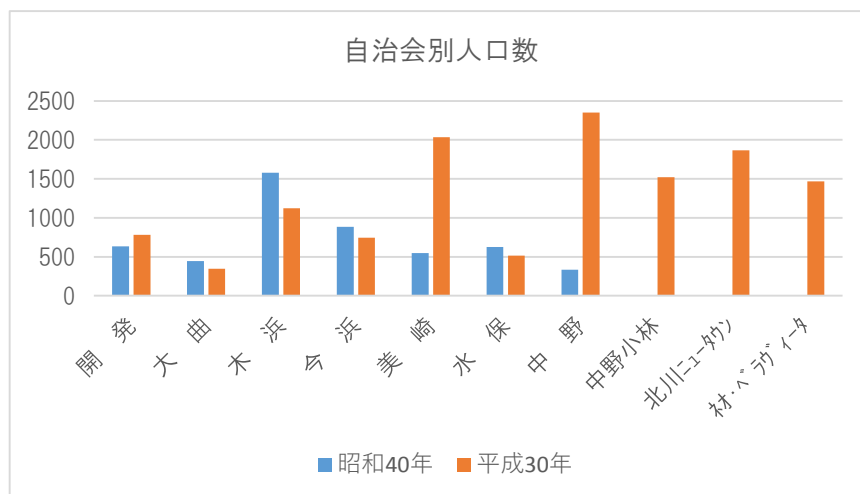


■自治会別人口・世帯数（平成30年）

自治会名	人口数	男	女	世帯数
開 発	781	376	405	338
大 曲	348	164	184	124
木 浜	1,121	553	568	410
今 浜	743	352	391	252
美 崎	2,034	1,024	1,010	914
水 保	515	244	271	189
中 野	2,350	1,187	1,163	867
中野小林	1,522	757	765	605
北川ニュータウン	1,867	952	915	738
ネオ・ベラヴィータ守山	1,469	735	734	438

■自治会別人口・世帯数（昭和40年） * 昭和39年琵琶湖大橋開通

自治会名	人口数	男	女	世帯数
開 発	636	307	329	122
大 曲	445	217	228	85
木 浜	1,578	760	818	337
今 浜	883	437	446	176
美 崎	549	273	276	109
水 保	627	296	331	123
中 野	334	170	164	66



地域のたからもの

速野学区には、「たからもの」といえる良いところ、誇れるものが多くあります。これらをまちづくりに活かしていきたいものです。

■人とひとのつながりが強い地域です

- 内陸部の古くからの集落では、おすそ分けの習慣が残るなど、お互いの顔がみえる近所づきあいが根付いています。
- 転入者が多く歴史の浅い新興住宅地でも、夏祭りや一斉清掃等の自治会あげての行事により、地域の人々同士のつながりを生み出しています。
- 「学区民のつどい」をはじめとした祭りやソフトボール大会等のイベントを開催、日常的な子育て支援活動などを通じて、新旧住民の間の交流も強まりつつあります。



▲速野学区民のつどい

■歴史を感じさせる史跡や伝統行事が残っています

- 己爾乃神社^{こじのじんじゃ}、樹下神社、福林寺、観音寺などの由緒ある神社仏閣、左義長^{さぎちやう}、菜蒔盆^{なまきぼん}※、たらい神輿^{たらいかみこ}※等の祭りなど、歴史にまつわる様々な資源や伝統行事が残されています。
- 旧野洲川の伏流水など、昔から地域の人々と水とのつながりが強い地域であることから、井戸、出湯^{でつう}※、竹管簡易水道、旧木浜港等、水にまつわる生活遺産を今でもみることができます。

※菜蒔盆：己爾乃神社で9月に行われる祭り。豊穣に感謝し粗菜類の種をまく。

※たらい神輿：毎年5/5に樹下神社においてお満さん伝説にちなみ、たらいにお満さんを乗せて町内を担ぎ歩く。

※出湯：野洲川の改修前、旧集落の中で伏流水が湧出していた場所。



▲旧木浜港

■豊かな自然を活かした住みやすい環境が形成されています

- 旧野洲川河川敷や琵琶湖岸には様々な動植物が生息し、琵琶湖、木浜内湖、法竜川、大川、新川等の水辺にも自然が残されています。
- 素のままの自然環境や、これらの環境を活かして整備された地球市民の森等の公園などが、潤いとやすらぎの空間を形成しています。
- 湖岸に近い新興住宅地では、花に彩られ美しく整った町並みが形成されています。



▲地球市民の森の植樹祭

■速野ならではの産業、文化、施設があります

- 豊富な河川水を活用した農業や鮎漁をはじめとする漁業など、多彩な第一次産業が地域を支え、川魚料理等の伝統的食文化や地域ブランドであるモリヤマメロンなどを生み出してきました。
- 琵琶湖大橋、レインボーロード、湖岸道路が結節する県内でも重要な交通の要衝であり、湖岸に近い地域では、美術館や公園やゴルフ場等地域の人々も来訪者も楽しめる施設が多く立地し、リゾート・レクリエーションエリアとなっています。



▲佐川美術館

現在のまちの課題

一方で、速野学区には、新旧地域の人々の混在という大きな流れを下敷きにした、様々なまちづくりの問題・課題があり、これらを解決していく必要があります。

■人口の増える地域と減少傾向の地域での地域差が広がっています

- 新興の住宅地では人口が増えているものの昼間は高齢者が多く、防災・防犯上の不安があります。
- 旧集落では少子高齢化が進み、農業の後継者確保や地域行事の継承が難しくなっています。
- 新旧地域に共通して、世代間の交流機会の不足、地域への関心や帰属意識が希薄化しています。

■学区運営、自治会運営における世代交代が停滞しています

- 学区や自治会の役員にかかる負担が大きくなっています。
- 役員世代交代が停滞しており、新たなリーダーの育成、若者や女性の参画の促進が必要です。

■末永く安心・安全に暮らすための生活基盤が十分ではありません

- 学区レベルでの防災訓練の実施や避難所の確保など、地域防災への取り組みが必要です。
- 公共交通の利便性が低く、車を運転できない高齢者の通院などが問題となってきています。
- 狭隘な生活道路を抜け道として利用する車が多く、交通事故の危険性が高くなっています。

■北部市街地、観光リゾート地にふさわしい施設が必要です

- 市中心部から離れており、図書館等の文化施設からも距離があります。
- 琵琶湖大橋や湖周道路を行き交う車や人々が立ち寄ってくれるような、観光リゾート地にふさわしい集客施設が必要です。

■恵まれた自然・景観・水環境があるのに活かしていません

- 地球市民の森は雑草が生い茂り、不法投棄も増加するなど、管理が行き届いていません。
- 琵琶湖、木浜内湖、法竜川、大川等の豊富な水辺に触れあえる親水性の高い環境が必要です。
- 湖岸のハマヒルガオ群落やなぎさ公園の砂浜などの継続的な保全が必要です。

■地域への愛着や誇りが醸成されにくいのが現状です

- それぞれの自治会で祭りやイベントはありますが、学区全体を挙げてのイベントは多くはありません。
- 地域の人々が誇りに思い、郷土愛が醸成される取り組みや資源が必要です。

速野学区まるごと活性化の取り組み



「守山の北の玄関速野まるごと博物館構想

～人・自然・歴史がおりなす理想郷を目指して～

速野学区には、広大な学区域に自然、水、歴史などに彩られた多様なたからものが点在し、地域住民の生活に溶け込みながら守られてきました。また、このような環境で育まれた第一産業(農業、漁業)を通して、人と人、人と地域のつながりが醸成されてきました。琵琶湖大橋の開通以降は、本市の北の玄関として急速に発展するとともに、新旧の住民が一体となって他の学区に先駆けた様々な取り組みを行い、その気風は今なお地域住民の中に息づいています。

私たち速野学区民は、守山の北玄関にふさわしいもてなしの心を胸に、先人たちの進取の気風を受け継ぎ、地域の恵まれた環境を“速野まるごと博物館”として後世までに大切に残しながら、未永く生き活きと暮らせる速野のまちづくりを目指していきます。

◆これまでの取り組み

A 守山の北の玄関おもてなしプロジェクト

レインボーロード(琵琶湖大橋取付道路)と湖岸道路が交差する、湖南と湖西・湖東地域の重要な交通結節点という地の利を活かし、本市の北の玄関口として、また県内外の様々な情報・物・人が集まる拠点として、行き交う車や人々が足を止めてくれるような魅力を創出します。

(主な取組)

- ・ サイクリングイベントの開催
- ・ ポケットパークの整備、植栽、美化活動
- ・ 湖岸振興会との連携によるイベント開催（鮎寿司体験）
- ・ SNSによる情報発信



B 速野まるごと博物館プロジェクト

恵まれた自然、景観、水環境という地域の魅力に一層の磨きをかけ、まちづくりに活用していくため、地域内に点在する地球市民の森、琵琶湖、木浜内湖、大川、法竜川、旧集落や農地を流れる河川、公園等の個性的な地域資源から、伝統的な生活文化までの多彩なたからものをネットワークして、速野学区全体を博物館としてエコミュージアムの形成を目指します。

(主な取組)

- ・ 博物館マップ（歴史編）（自然編）の作成
- ・ ふれあいウォークの開催
- ・ ハマヒルガオ、おまがりぼたるの活動支援
- ・ 名所案内看板の設置



C びわこ地球市民の森いきいきプロジェクト

びわこ地球市民の森に恵まれた自然や優れた景観などを活かし、地域の人々が日常の楽しみややすらぎを享受し、住民間相互の交流を図る場として活用するとともに、学区外からの集客を目的としたイベントを開催し、にぎわいや活力を生み出します。

(主な取組)

- ・ ノルディックウォーキングの普及
- ・ ウォーキングマップの作成
- ・ 四季桜の植樹祭等の実施
- ・ 森づくりサポーター活動への支援



D 大川周辺の自然環境保全&環境学習推進プロジェクト(大川プロジェクト)

旧野洲川の豊かな自然と湖周道路に近い立地を活かし、大川と周辺の自然環境を中心に琵琶湖(おもに琵琶湖大橋以北)や美崎公園、なぎさ公園などともネットワークさせ、地域の人々や来訪者にやすらぎとうるおいを与える空間を創出するとともに、環境学習の場として有効に活用します。

(主な取組)

- ・ 大川水草除去、河川敷除草、清掃活動
- ・ 夏休み大川自由研究室の開催
- ・ 大川親水デッキ活用イベント
- ・ 新川への植樹等



E ふるさとの文化を見つめなおし守ろうプロジェクト

神社仏閣、史跡、言い伝えなど、地域の歴史を語るたからものを、地域の人々の手によって再発見・再整理し、その魅力や歴史的価値を地域内外の人により良く知ってもらおうとともに、地域の人々が誇りを持って、歴史・伝統・文化を次世代に継承する仕組みをつくりまします。

(主な取組)

- ・ 語り部による「ふるさと紹介のつどい」の開催
- ・ 速野まちづくり絵本の作成
- ・ DVD「これからの速野」作成



F みんなで考えよう速野の未来プロジェクト

少子高齢化が進む旧集落と人口増加が続く新興住宅地の住民意識の差、世代間交流の希薄化、自然環境の保全、安心・安全の確保など、地域の様々な課題を改善するため、あらゆる世代や立場の地域の人々が課題を共有し中長期的な速野のまちづくりビジョンをみんなで考える基盤をつくります。

(主な取組)

- ・ 広報紙の発行
- ・ まるごと活性化のPR
- ・ ヒヤリハットマップ作成



ふるさとづくり委員会が発足して5年目を迎え、ふるさと速野の活性化をめざして、速野学区の魅力ある“たからもの”を見つける活動を推進してまいりました。この“速野のたからもの”にさらに磨きをかけ、未来につながるまちづくりを展開していくために、今後も引き続きまるごと活性化事業に取組み、新しい活動を推進していきます。



守山まるごと活性化プラン



各学区プロジェクト
取り組み状況

守山市



守山学区の取組

A 自治会魅力向上プロジェクト

(主な取組)

- ・ 自治会アンケート調査の実施
- ・ 自治会の課題整理、解決策の検討
- ・ 自治会ハンドブックの作成
- ・ わがまちミーティングの開催



自治会の課題整理、解決策の検討



自治会ハンドブック



わがまちミーティング

B 守山の歴史・伝統文化再発見プロジェクト

(主な取組)

- ・ 中山道守山宿まるごとマップの作成（吉身学区と連携）
- ・ 中山道ガイドブックの作成（吉身学区と連携）
- ・ 中山道カレンダーの作成（吉身学区と連携）
- ・ 伊勢遺跡案内看板の設置（3個所）



中山道守山宿まるごとマップ



中山道カレンダー 表紙



伊勢遺跡案内看板

守山学区の取組

C JR 東側活性化プロジェクト

(主な取組)

- ・ JR 東側防災対策の検討
- ・ JR 東側活動拠点の整備検討



防災対策の検討



活動拠点の整備検討（さづかわ交流センター視察）

D 水とホタルから輝くプロジェクト

(主な取組)

- ・ ホタル啓発看板作製
- ・ 環境バランス水槽設置、ホタルの幼虫飼育・放流
- ・ ホタルの学習、講座の受講
- ・ 学区民のつどいで啓発
- ・



ホタル啓発看板



環境バランス水槽の設置



学区民のつどいでの展示

吉身学区の取り組み

A ホタルを守るプロジェクト

(主な取組)

- ・ ホタルの幼虫飼育、放流
- ・ ホタル観賞会、学習会の開催
- ・ ホタル飛翔調査、河川環境調査の実施
- ・ ホタル保護啓発看板設置



ホタルの幼虫の放流



学区民のつといででの啓発



ホタル保護啓発看板設置

BC 歴史・伝統・中山道プロジェクト

(主な取組)

- ・ 中山道守山宿まるごとマップの作成（守山学区と連携）
- ・ 中山道ガイドブックの作成（守山学区と連携）
- ・ 中山道カレンダーの作成（守山学区と連携）



再掲



中山道守山宿まるごとマップ



中山道カレンダー 表紙

吉身学区の取り組み

D 祭りだ！わっしょいプロジェクト

(主な取組)

- ・ 学区民のつどいで豊年踊り、守山音頭を実施
- ・ 学区民のつどいに「子どもサポーター」の導入
- ・ 吉身学区イベント・たからものマップの作成
- ・ 吉身学区イベント・たからものマップの看板作製



子どもサポーター



イベント・たからものマップの看板



イベント・たからものマップ

小津学区の取り組み

B 新守山川触れ合い環境整備プロジェクト

(主な取組)

- ・ 桜まつりの開催
- ・ 魚つかみ大会の開催
- ・ 桜などの植樹、剪定作業の実施
- ・ 新守山川自転車道・遊歩道整備



桜まつり



魚つかみ大会



桜並木づくりに向けた植樹

C 水に育まれた小津の文化発見プロジェクト

(主な取組)

- ・ 冊子「小津の宝物」作成
- ・ 小津ウォーキングマップの作成
- ・ 小津まちかどウォークの開催
- ・ 小津のたからものフォトコンテスト開催



小津まちかどウォーク



たからものフォトコンテスト



小津の宝物



ウォーキングマップ

玉津学区の取り組み

A 諏訪家屋敷をはじめとする玉津の歴史・伝統文化活性化プロジェクト

(主な取組)

- ・ 諏訪家屋敷まつりの開催
- ・ まるごと歴史散策ウォークの実施
- ・ 小菊盆栽展の実施
- ・ 語り部による学校やイベントでの昔話



諏訪家屋敷まつり



語り部読み聞かせ



小菊盆栽展

B 赤野井湾プロジェクト

(主な取組)

- ・ 赤野井湾クリーン大作戦の実施
- ・ 親子漁業体験ツアーの実施
- ・ 屋形船体験ツアーの実施
- ・ 湖岸清掃活動への参加



赤野井湾クリーン大作戦



屋形船体験ツアー



赤野井湾啓発

玉津学区の取り組み

C 食の地産地消推進プロジェクト

(主な取組)

- ・ 野菜直売所の開設
- ・ まるたま納豆の活用
- ・ 矢島かぶらの活用
- ・ 諏訪なべの提供



野菜直売所の開設



まるたま納豆づくり



矢島かぶら料理教室

D 玉津ホタル祭り・イベント推進プロジェクト

(主な取組)

- ・ ホタル学習会、観察会の実施
- ・ 子ども調査員による飛翔調査の実施
- ・ ホタル啓発看板作製
- ・ 長刀まつりのDVD作成、情報発信



ホタル学習会



ホタル学習発表



ホタル観賞会

E 定住促進プロジェクト

(主な取組)

- ・ 地区計画の支援

河西学区の取り組み

A 野洲川・法竜川・里川の「水辺空間」満喫プロジェクト

(主な取組)

- ・ 北川原公園の整備
- ・ 河西ふれあい花壇の植栽、除草
- ・ トンボ観察会の開催



ふれあい花壇開園式



スイセン開花



トンボ観察会

B 近江妙蓮活用プロジェクト

(主な取組)

- ・ 天然記念物への申請検討
- ・ ポスター作成、案内看板作製
- ・ 守山市花制定 40 周年記念切手の作成、発行
- ・ 観蓮会の開催支援



近江妙蓮ポスター



近江妙蓮記念切手



観蓮会の開催支援

河西学区の取り組み

C 河西の「身近な魅力」情報発信プロジェクト

(主な取組)

- ・ 水辺探訪の実施
- ・ 河西魅力情報マップの作成
- ・ 河西魅力情報マップ解説版の作成
- ・ 河西魅力情報マップ・解説版の活用（歩こう会の実施）
- ・ 河西まるごとブログの開設



水辺探訪（川戸）



歩こう会



河西魅力情報マップ・解説版

D 河西のみんなで「つながる」プロジェクト

(主な取組)

- ・ どんろんこあそび大会の開催
- ・ 芋煮会の開催
- ・ 自然観察会の実施



どんろんこあそび大会



芋煮会

河西学区の取り組み

E 健やか・安心・快適な生活環境創出プロジェクト

(主な取組)

- ・ 高齢者移動支援の検討
- ・ 高齢者買い物支援リスト「かわにしの家事お助けリスト」の作成
- ・ ボール遊びができる公園整備の検討

生活支援・移動・送迎サービス等 お助け一覧表

生活支援	移動・送迎	送迎サービス	お助け一覧表
1. 高齢者移動支援	2. 高齢者移動支援	3. 高齢者移動支援	4. 高齢者移動支援
5. 高齢者移動支援	6. 高齢者移動支援	7. 高齢者移動支援	8. 高齢者移動支援
9. 高齢者移動支援	10. 高齢者移動支援	11. 高齢者移動支援	12. 高齢者移動支援
13. 高齢者移動支援	14. 高齢者移動支援	15. 高齢者移動支援	16. 高齢者移動支援
17. 高齢者移動支援	18. 高齢者移動支援	19. 高齢者移動支援	20. 高齢者移動支援
21. 高齢者移動支援	22. 高齢者移動支援	23. 高齢者移動支援	24. 高齢者移動支援
25. 高齢者移動支援	26. 高齢者移動支援	27. 高齢者移動支援	28. 高齢者移動支援
29. 高齢者移動支援	30. 高齢者移動支援	31. 高齢者移動支援	32. 高齢者移動支援
33. 高齢者移動支援	34. 高齢者移動支援	35. 高齢者移動支援	36. 高齢者移動支援
37. 高齢者移動支援	38. 高齢者移動支援	39. 高齢者移動支援	40. 高齢者移動支援
41. 高齢者移動支援	42. 高齢者移動支援	43. 高齢者移動支援	44. 高齢者移動支援
45. 高齢者移動支援	46. 高齢者移動支援	47. 高齢者移動支援	48. 高齢者移動支援
49. 高齢者移動支援	50. 高齢者移動支援	51. 高齢者移動支援	52. 高齢者移動支援
53. 高齢者移動支援	54. 高齢者移動支援	55. 高齢者移動支援	56. 高齢者移動支援
57. 高齢者移動支援	58. 高齢者移動支援	59. 高齢者移動支援	60. 高齢者移動支援
61. 高齢者移動支援	62. 高齢者移動支援	63. 高齢者移動支援	64. 高齢者移動支援
65. 高齢者移動支援	66. 高齢者移動支援	67. 高齢者移動支援	68. 高齢者移動支援
69. 高齢者移動支援	70. 高齢者移動支援	71. 高齢者移動支援	72. 高齢者移動支援
73. 高齢者移動支援	74. 高齢者移動支援	75. 高齢者移動支援	76. 高齢者移動支援
77. 高齢者移動支援	78. 高齢者移動支援	79. 高齢者移動支援	80. 高齢者移動支援
81. 高齢者移動支援	82. 高齢者移動支援	83. 高齢者移動支援	84. 高齢者移動支援
85. 高齢者移動支援	86. 高齢者移動支援	87. 高齢者移動支援	88. 高齢者移動支援
89. 高齢者移動支援	90. 高齢者移動支援	91. 高齢者移動支援	92. 高齢者移動支援
93. 高齢者移動支援	94. 高齢者移動支援	95. 高齢者移動支援	96. 高齢者移動支援
97. 高齢者移動支援	98. 高齢者移動支援	99. 高齢者移動支援	100. 高齢者移動支援

資料：河内郡東区社会福祉協議会 高齢者移動支援サービス課 TEL:071-843-2782

かわにしの家事お助けリスト



公園整備の検討

速野学区の取り組み

A 守山の北の玄関おもてなしプロジェクト

(主な取組)

- ・ サイクリングイベントの開催
- ・ ポケットパークの整備、植栽、美化活動
- ・ 湖岸振興会との連携によるイベント開催
- ・ SNSによる情報発信



サイクリングイベント



ポケットパークの整備



湖岸振興会との連携（鮎ずし作り）

B 速野まるごと博物館プロジェクト

(主な取組)

- ・ 博物館マップ（歴史編）（自然編）の作成
- ・ ふれあいウォークの開催
- ・ ハマヒルガオ、おまがりぼたるの活動支援
- ・ 名所案内看板の設置



ふれあいウォーク



おまがりぼたる観察会



ハマヒルガオ

速野学区の取り組み

E ふるさとの文化を見つめなおし守ろうプロジェクト

(主な取組)

- ・ ふるさと紹介のつどい開催
- ・ 速野まちづくり絵本の作成
- ・ 語り部DVD「これからの速野」作成



語り部によるふるさと紹介のつどい

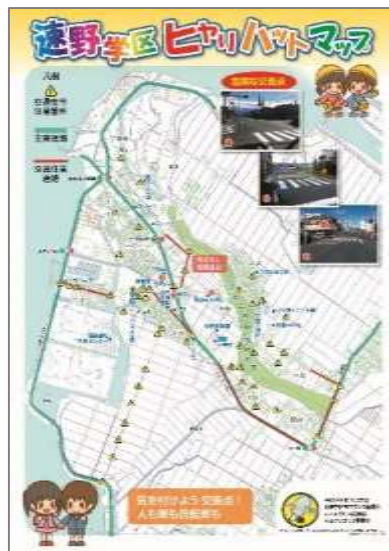


速野まちづくり絵本

F みんなで考えよう速野の未来プロジェクト

(主な取組)

- ・ 広報紙の発行
- ・ まるごと活性化のPR
- ・ ヒヤリハットマップ作成



ヒヤリハットマップ

速野学区の取り組み

C びわこ地球市民の森いきいきプロジェクト

(主な取組)

- ・ ノルディックイベントの実施
- ・ ウォーキングマップの作成
- ・ 四季桜の植樹祭等の実施
- ・ 森づくりサポーター活動への支援



ノルディックイベント



四季桜の植樹



いきいきセミナー

D 大川周辺の自然環境保全&環境学習推進プロジェクト(大川プロジェクト)

(主な取組)

- ・ 大川水草除去、河川敷除草、清掃活動
- ・ 夏休み大川自由研究室の開催
- ・ 大川親水デッキ活用イベント
- ・ 新川への植樹等



新川河畔手入れ



夏休み大川自由研究室



大川植樹

中洲学区の取り組み

A 野洲川河川敷・伏流水再生プロジェクト

(主な取組)

- ・ 野洲川中洲親水公園の整備、愛称は「あめんぼう」に決定
- ・ 野洲川中洲親水公園（あめんぼう）でイベント実施
- ・ あめんぼうサポート隊のメンバー募集
- ・ 自治会ごとに水路図作成、伏流水再生水路の検討



あめんぼうでのイベント（凧作り&凧あげ教室）



サポート隊による除草作業

B みんな集まれ！中洲にぎわい活力創出プロジェクト

(主な取組)

- ・ なかす夏まつりでイベント実施
- ・ 中洲ふれあいの灯でイベント実施
- ・ ふれあいの灯看板デザイン決定



なかす夏まつり・梨の皮むき大会



中洲ふれあいの灯でのイベント



ふれあいの灯看板デザイン

中洲学区の取り組み

C 農業を元気にするプロジェクト

(主な取組)

- ・ 中洲産大豆、米を使った手作り味噌教室
- ・ ファミリーマラソンで中洲産芋煮出店
- ・ 視察研修の実施



手作り味噌教室



芋煮の出店



農場視察（タキイ研究農場）

D 安心して暮らせる公共交通を考えるプロジェクト

(主な取組)

- ・ 全戸に公共交通のアンケート調査実施
- ・ もりーカーに係る提案書を市に提出
- ・ もりーカーの体験乗車会を実施
- ・ 視察研修の実施



もりーカーに係る提案書提出



もりーカー体験乗車会



視察研修（晴嵐台自治会）

平成30年度活動報告

『夏休み大川自由研究室』

平成30年8月7日開催



大川に浮かぶ屋形船(前年)

平成30年度 夏休み大川自由研究室の開催

今年も8月7日(火)に「夏休み大川自由研究室」を開催いたしました。

平成25年から始まった、この研究室も6回目となりました。

今回も約65名の小学生(幼稚園児を含む)が参加してくれ、体験学習・スイカ割
昼食には毎年大人気の流しソーメン・海外の文化を学ぶ座学と夏休みの1日を楽しく
過ごしました。

研究室のプログラム (AM8:00~PM3:00)

- 参加者受付・・・・・・・・・・名札・研究室の資料・メモ用紙等配布
- オープニングセレモニー・・・・今日の予定・注意事項・予備知識を聞く
- 体験学習・・・・・・・・・・1, 2年・3, 4年・5, 6年に分かれ出発
- 遊び体験・・・・・・・・・・竹のおもちゃ・スイカ割等で楽しむ
- 昼食・・・・・・・・・・大人気の流しソーメンなどを楽しむ
- 座学・・・・・・・・・・アジアの生活と文化を学ぶ
- まとめ発表・・・・・・・・・・3グループに分かれ今日のまとめを発表

受付とオープニングセレモニー



準備が出来た会場



受付始まる



続々集まる子ども達



みんな集まって



みんな！よく聞いて



受付でもらった
缶バッジ

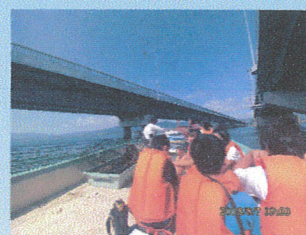
体験学習・5、6年生 琵琶湖で漁業体験



ピエリ横の漁港から



漁船にのって出港



びわ湖大橋の下へ



漁具を引き上げる



何かとれているかな？



今日の獲物は？

体験学習・3、4年生 フランクトン観察

西日本豪雨の影響で7月初めは琵琶湖の水位が+70cm上昇、1ヶ月後の8月初旬には-20cm強となり、屋形船で大川下流のテッキでのフランクトン観察の予定が屋形船の運行が出来ず自治会館で実施した。



手作り顕微鏡を作る



上手く作れるかな？



フランクトンを学ぶ



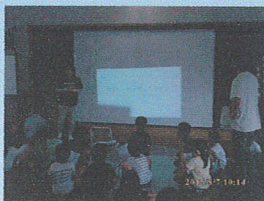
自分たちの顕微鏡で見えるかな？



今度は本物の顕微鏡で！どのフランクトンかな？

体験学習 1・2年生 夏野菜でヤサイハンコや精霊馬を作る

例年は野菜畑で収穫体験だったが、今年は炎天下での活動は厳しく、室内での体験学習とした。



畑・野菜の勉強



体験の説明を聞く



色々な野菜



どの野菜にするかな？



どんなハンコが出来るか



野菜につまようじを刺して

昼食前のアトラクション

今年も人気のスイカ割を楽しみました



スイカ割の準備完了!



いよいよ始まり



おみごと!!



スイカ割で楽しんだ後は冷えたスイカをいただきます



割れたスイカも手づかみで食べました。

楽しい昼食

今年も毎年大好評の流しソーメン



いよいよソーメンを流すよ



みんな上手に食べてます



終わりに近づくと大人も一緒に楽しみました



小さな子ども達は室内で卓上流しソーメン機で、又かやく飯も用意されていました

座学

今年もフータンや中国の海外の文化を教えてもらいました



フータンの挨拶を教わる



フータンの文化を勉強



中国の生活を勉強



フータンの踊りをみんなで踊りました



フータンのお茶やお菓子をいただきました



今日の研究室のまとめ



みんな、それぞれにアンケートの質問に答えを記入して！

アンケートの内容

- 今日一日の研究室のまとめを立命館大学の「haconiwa」の皆さんと一緒にアンケート用紙に沿ってまとめました。
- アンケート調査の内容
 1. 今日一番思い出になったことは？
 2. 今日体験したことで友だちに教えてあげたいことは？
 3. 書いたことを周りの友だちと発表しあって、新しいことはメモしておく。
 4. 皆さんが大人になったとき、どんな美崎になって欲しいですか？

アンケート結果 56人の子ども達から回答がありました

一番思い出になったことは？

回答(複数回答あり)	回答数	(%)
フータン・中国の文化や踊り他	21	34%
漁船にのって琵琶湖で漁体験	14	23%
流しソーメン	13	21%
顕微鏡作成・フランクton観察	8	13%
その他	5	8%
合計	61	100%

今日の体験で友だちに教えてあげたい事は？

回答(1~3番を回答)	回答数	(%)
フータンの文化と踊り	61	40%
琵琶湖での漁	25	16%
流しソーメン	23	15%
顕微鏡作成とフランクton観察	19	12%
スイカ割	13	9%
中国の文化	6	4%
野菜ハンコや精霊馬作り	2	2%
ソーメン以外の昼食	2	2%
合計	151	100%

大人になったときどんな美崎になって欲しいですか？

- 今と同じように自然(動植物)が多く、もっときれいな水の川や琵琶湖になって欲しい。
- 外来種(カメ・ブルーギルなど)がいなくなって欲しい。
- 安全で公園やお店「があり、便利でにぎやかな美崎になって欲しい。

「夏休み大川自由研究室」を終えて

- アンケート結果を見れば、海外の文化に対する興味と関心が、やはり一番多い。
- 体験学習のコースにより異なるが、漁船での琵琶湖の漁や大川の水のフランクton観察も人気であった。
- 自分たちの地域の自然や環境についても、考えていることが解かり感心した。



「夏休み大川自由研究室」を開催するにあたりましては、企画から準備、又当日の進行まで、多方面からご支援、ご協力頂き、さらに多くのボランティアの皆さまに大変お世話になりました。

本当にありがとうございました。

No.	回 答 内 容
1	おどったこと、お米がおいしかったこと
2	おどったこと、おこめがおいしかったこと
3	エンザンパー・ジェリー・ゼリー・びわこに行った
4	ブータンの人とあそんだこと
5	ブータンのおどりがかんどうしました
6	エンザンパー・ジェリー・ゼリー
7	ブータンのおどりをしたこと
8	一番おもしろかったことは、ブータンの人たちとダンスしたことです
9	一番思い出に残ったことは、ブータンのアイサツです。これからも覚えておきたいとおもいます ダンスも楽しかったです
10	ブータン人たちのおどりがじょうずだったこと。
11	身近なところで、魚やエビをとれたこと。ブータンの人とダンスをしたこと。
12	外国のおどりをした。ブータンや中国のお話しがたくさん聞けた。
13	ブータンのおどりなどいろいろな日本とちがう文化の話しを聞けたことが一番感動しました。
14	今日一番心に残ったことは、中国、ブータンの文化です。 中国は日本でも見たことがあったけれど、ブータンのは似ている所もあったけど 特におどりがみたことがなかったからびっくりしました。
15	ブータンの人と4人でダンスをしたことです。
16	ブータンの人と4人でおどったこと
17	ブータンの人と4人でダンスをおどれたことです。
18	みんなでブータンのだんすをおどったことです。
19	ふねにのって漁をしているところをみたこと、ペットぼとるをけつとばしたこと ブータンのおどり
20	船でびわこに行ってびわこ大橋の下を通ったこと。
21	船でびわこにいったこと、びわこうはしのしたにいったこと
22	船に乗ったらすずしかった。
23	船に乗って魚を取っている所を見れた事です。 カメがえびとかといっしょに入っていてびっくりしました。
24	ふねにのってえびがたくさんとれたことです。
25	ふねにのってかぜがすずしかった、船に乗って魚を取ってるところをみれたことです。 かやくごはんおいしかった、一人の女の人がかわいかった。
26	ふねにのって魚がとれたこと。
27	船にのり橋の下に行ったこと、橋の上はいけるけど、下はいくことがあまりないから。 ながしそーめん、すいかわりーー理由 たのしかったから
28	びわこにいったこと。
29	船にのり、びわ湖大橋の下へ行ったこと。理由はびわ湖大橋の下へ行くきかいがないから。 それに、深いところに行くとなみがすごかった。 すいかわり、そーめん
30	びわ湖大橋の下をとったこと
31	ふねにのったこと、えびがみれたこと
32	プランクトンのかんさつ。

No.	回 答 内 容
33	自分でけんびきょうを作ったこと。プランクトンを見たこと。
34	プランクトンを見たこと。
35	手作りけんびきょうを作ったこと。
36	自分でけんびきょうを作れたことが思い出。プランクトンを見たことも思い出です。 ながしそーうめんを食べたこと。
37	けんびきょうをつくって水をかんさつしたことです。
38	けんびきょうを作ったこと。
39	プランクトンをみんなで見たこと。けんびきょうを作ったこと。
40	きゅうりにつまようじえをさしたところがおもいでになりました。 ながしそうめんがおもいでになりました。
41	すいかわり、ながしそうめん、植西彩奈というおねえさんと遊んだことが思い出になった。
42	ながしそうめんをたべたことです。
43	ながしすうめんがいがいにできたこと。
44	流しそうめん。たきこみご飯。プータンのおどり。
45	最後の動画とながしそうめん
46	最後の動画とながしそうめんとすいかわり
47	ながしそうめん
48	ながしそうめんがたのしかった。
49	すいかわりをできたこと。
50	ながしそうめんの絵
51	すいかわりをできたこと。
52	おこめがとてもおいしかったこと。だんすをみせてもらったりおどったりしたこと。 すいかを手でわってたでたこと。
53	おこめがむちゃくちゃおいしかった
54	やさいにさしたこと
55	
56	最後の動画

以上56枚の回答がありました

一番感動や思い出になったことに対する内訳

(複数回答あり)	回答数	(%)
プータン・中国等文化座学	21	34%
琵琶湖へ漁船で漁体験	14	23%
顕微鏡作成プランクトン観察	8	13%
流しそうめん	13	21%
その他	5	8%
	61	

今日体験したことで、友達に教えてあげたいこと

1～3番を回答

項目	回答数	(%)
スイカ割	13	8.4%
ブータンの踊り・文化	61	39.4%
流しそうめん	23	14.8%
座学で学んだこと	4	2.6%
顕微鏡作りとプランクトン観察	19	12.3%
中国の文化	6	3.9%
琵琶湖の漁	25	16.1%
精零馬作り	2	1.3%
素麺以外の昼食	2	1.3%
	155	100.0%

将来、どんな美崎になってほしいですか？

- 今と同じ自然（動植物）が多く、もっときれいな水の川や琵琶湖になってほしい。
- 外来種がいなくなってほしい。
- 安全で公園やお店があり便利な美崎になってほしい。

8A15A (5P)

流し（流）

小学生70人大川に親しむ

守山で漁業体験や微生物観察

地域の小学生たちに守山 さらおとと、漁業体験やプ
市を流れる大川に親しんで ランクトンの観察などをす



る「夏休み大川自由研究
室」が美崎自治会館（同市
今浜町）周辺で開かれた。
美崎自治会などで作る
「大川活用プロジェクト」
が主催。体験を通じ、地域
の自然に関心をもってもら
う狙い。世話人の伊藤潔さ
ん（71）＝同市今浜町＝は
「みんなで守っている豊か
な環境という地域資源を子
供の成長に生かしたい」と
話す。

小学生約70人が参加し、
漁師の船に乗って琵琶湖の
伝統漁「エリ漁」の説明を
受けたり、大川の水中にい
る微生物を顕微鏡で見たり
するなど地域の自然環境を
学んだ。昼食は、近くの竹
林から切り出した竹を使っ
て流しそうめんを楽しん
だ。

小学3年の田井中厚徳さ
ん（9）は「地域にいろん
なものがあると知った。思い
出もたくさんできて楽しか
った」と話した。

地域の竹林から切り出した
竹を使った流しそうめんを
楽しむ子供ら

＝守山市今浜町



守山市の概要



人口	83,157人(2019/1月末) 76,248人(2009/3月末)
世帯数	32,090世帯 65歳以上の割合 21.52%
面積	55km ² (陸地面積 45 km ²) ※市内の高低差約20mのフラットな地形
電車	で京都まで25分、大阪まで55分
まちづくりの基本理念「のどかな田園都市」	





1. 自転車を軸とした観光振興

なぜ、ビワイチなのか

守山市の立地特性を活かして・・・

- 1 ビワイチサイクリスト1番の人気スポット「琵琶湖大橋」の袂に位置！
- 2 琵琶湖大橋は滋賀県の交通の大動脈！
- 3 京都から車で1時間など京阪神・名古屋からもアクセスも良好！
※開空・セントレアからのアクセスが良く、京都にも近接することからインバウンド旅行者の観光コースに組みやすい利点がある。
- 4 市内は高低差がほとんどない、自転車で移動しやすい地形！



まずは、自転車のまちづくりの成功モデルを学びに行こう！

サイクリストの聖地「しまなみ」の成功事例を徹底研究！

両端の今治市・尾道市にGIANTの店舗がオープンし、世界最大の自転車メーカーGIANT社の創業者・劉会長が地元要人としまなみ海道を走ったイベントが大きく報道されたことが契機となり、日本で最も注目を集める「サイクリストの聖地」へ。

しまなみ海道の成功モデルを徹底的に守山市へ活かそう！
『ビワイチ起点のまち守山市』をキーワードに、しまなみに
次ぐ聖地となるため、自転車を軸としたまちづくりを開始！！

4

⑥H29.3.27 **愛媛県今治市と『自転車を通じたまちづくり交流協定』締結！**

今治市・守山市で交流ピワイチサイクリングを実施。共同して「しまなみ」と「ピワイチ」を相互にPRし、自転車新文化を広める。

→
今治市長と共に琵琶湖
大橋の上で記念撮影



⑦H29.4.6 **守山市湖岸エリアに『琵琶湖サイクリストの聖地碑』誕生！**

副知事を筆頭に、県内の女性サイクリストとジャイアントLivチーム合同での女性限定ピワイチが全国で話題に！

⑧H29.4.30 **楽天トラベル発表「全国自転車旅行ランキング」で、1位今治・しまなみに次ぎ、
ピワイチ（守山・近江八幡・彦根）がランク外からいきなり2位に登場！**

⑨H29.7.28 **ホテルラフォーレ琵琶湖が、「琵琶湖マリオットホテル」にリブランド！**

森トラスト株式会社による滋賀県初となる外資系ホテルの誕生、今後のインバウンド誘致に大きな期待！

※自転車先進地を学ぶべく、平成28年、29年のGWを活用し、
2年間かけて台湾を自転車で一周し、環島（ファンダオ）を達成！



6

地方創生取り組みから今日までの活動年表



①H27.12.5 三日月知事、GIANT JAPAN 中村社長と宮本市長が漁船タクシーでピワイチ体験。

②H27.12.20 台湾へ勉強に突撃訪問（私費）、GIANT 社劉会長や経営幹部と意見交換。

③H28.3.18 **「ジャイアントストアびわ湖守山」オープン**

しまなみ海道の尾道・今治に次ぐ3店舗目のレンタサイクルができる「GIANT」ブランドの旗艦店。

④H28.5.20 **世界最大の自転車メーカーGIANT社 劉会長、羅社長が来市、
県知事始め、県内企業幹部、自転車愛好家らとサイクリング**

劉会長は「ピワイチ」は「やるべき課題は多くあるが、自転車の聖地となる可能性がある」と評価！

⑤H28.6.1 市民・民間・行政連携組織、「びわ湖守山・自転車新文化推進協議会」設立

琵琶湖や守山市を舞台に活動する自転車愛好家に向け、市民主体でイベントや自転車教室を主宰！



5

- ⑩ H29.10.13～15 **台湾からの招聘ツアー！2泊3日で琵琶湖1周サイクリング**
滋賀県知事をはじめ、県内首長、滋賀県経済界代表者らと台湾財界関係者でピワイチサイクリング！
- ⑪ H29.10.25 **プロサイクリスト総監修の県全域を舞台とした防水ピワイチマップ発行！**
防水！全コース動画収録！スマホサイズとサイクリスト目線に立ったピワイチマップに問い合わせ、取材殺到！
- ⑫ H29.11.8 NTT西日本と連携し、ICTを活用したピワイチのスタンプラリーイベント開催！
スマホアプリを活用した、滋賀県全土を舞台としたスタンプラリー！11/8～12/18までの1カ月で500ダウンロード達成！
- ⑬ H29.12.31 **滋賀県によるピワイチサイクリストの年間推計発表！年間9万5千人に！**
平成27年5万5千人、平成28年7万2千人から増加！守山市スタートも大増増加！サイクリストの聖地碑も全国から注目！
※：平成30年の年間ピワイチサイクリストは10万人超（現在県において集計中）
- ⑭ H30.3.31 **平成30年度ビジットジャパンの採択決定！超広域連携によるインパウンドPR！**
愛媛県、今治市、尾道市、名護市、守山市連携による西日本ゴールデンルートづくりに向け始動！
- ⑮ H31.3.1 **ピエリ守山に、琵琶湖を眺望する露天風呂を有する天然温泉施設「水春」の誕生**

地方創生に取り組む中で、守山市単体での取り組みから、自治体間の連携や民間企業との連携により、ピワイチの普及・浸透、自転車新文化の広がり



参考：滋賀県内のピワイチ受入体制（サポート体制！）



1 ピワイチサポートステーション

滋賀県下では、県内のコンビニや道の駅、飲食店、宿泊施設など県内約300か所で、サイクリストのトイレ利用や空気ポンプや工具等の貸出を行うサイクリストおもてなし拠点を整備し、施設ごとに様々なサービスを展開してピワイチをサポート！

2 自転車以外の移動手段も活用

距離の長いピワイチでも、“滋賀ならではの”湖上交通やローカル線を活用して便利に楽しめるよう、サイクリスト受入体制が民間事業者との連携により、実現されています。

電車

滋賀県最古の鉄道である「近江鉄道」はサイクルトレインとなっており、レトロな駅、車窓からの風景を楽しめます。

船

琵琶湖北部を運航する定期船では、船内に自転車をそのまま乗せることができ、四季折々の湖上からの風景を楽しめます。

漁船

琵琶湖で漁業を営む漁船で、人と自転車を目的地に運ぶ守山市独自の取り組みで、漁船ならではの爽快感が楽しめます。

JRやローカル線である信楽高原鉄道など、一部輸行バッグ等の利用が必要となるなど改善の余地がありますが、地域企業と連携し、地域資源を活用することで、一層充実したサイクリングが楽しめます。





「自転車を中心とした観光振興」 取り組み事例

守山市発
オンリーワン
のコンテンツ
開発！

1. ビワイチを楽しく！お手軽に！ ～漁船タクシー事業～

漁船タクシーとは・・・

琵琶湖で漁業を行う漁船を活用し、「サイクリストと自転車」を運び、琵琶湖をショートカット！平成27年12月から開始し、平成28年度、平成29年度と3カ年継続実施！

漁船タクシー3つの魅力

台湾の世界最大の自転車メーカーGIANT社 劉前会長も体験。
「自転車のこんな楽しみ方があったのか！これはおもしろい！」
と絶賛！！琵琶湖ならではの観光コンテンツ。

- ① ビワイチサイクリングをお手軽に！**
琵琶湖を自転車一周するビワイチは全長約200キロもあり、体力に自信のない方や初心者には1日で回りきるのはなかなか大変。でも、漁船タクシーなら、ビワイチをショートカットし、体力やお好みに合わせたルート設定が可能！
- ② 漁船ならではの臨場感・爽快感を堪能！**
湖面を間近に感じる臨場感と爽やかな湖風の爽快感が味わえます。
- ③ 湖上でしか見られない琵琶湖の風景！**
琵琶湖大橋を真下から見上げ、白鬚神社の湖上参拝、琵琶湖の伝統漁法「えり」を湖上から見るすることができます。

運航経路

ビワイチ起点
のスポットを
目指す！

2. 守山市をサイクリストの聖地に！ ～「聖地の碑」設置～



琵琶湖サイクリストの聖地碑とは・・・

美しい琵琶湖の風景を望む守山市湖岸に『琵琶湖サイクリストの聖地』碑を設置。平成29年4月6日に、碑の設置を記念し、女性や初心者にも比較的走りやすいビワイチの魅力を広くPRするため、田中セシルさんや池永滋賀県副知事を筆頭に**女性ビワイチ・サイクリング**を実施。



↑宮本守山市長、池永滋賀県副知事、中村社長（㈱ジャイアント）や県内外の観光・経済関係者、地元議会関係者等による記念撮影



最近はこの変化が・・・笑！



この地を訪れるサイクリストがお賽銭を置いていくようになりました。

サイクリング・
イベントでのサ
ポート体制構築

3. 全国初！長距離ライドも安心！ ～ビワイチ・サポートカー～



ビワイチサポートカーとは・・・「モバイル・エイドステーションです」

サポートカーの機能について

- 1 **荷台を空ければ「エイドステーション」に！**
後部ドアをあげると脱着可能な棚を整備。琵琶湖周辺のコンビニや公園、道の駅に駐車してエイドステーションに早変わり。
- 2 **自転車の輸送対応可能！**
屋根部にはキャリア4台分を搭載し、車内を含め最大10台輸送可能。
※もちろん人も輸送可能、空気入れや救急箱も搭載しています。
- 3 **ビワイチPRのためのラッピング！**
大規模イベント時には車ごと展示し、ビワイチをPR！

↓2018浜路ロングライド、イベントでも大活躍！



←ライドでも活躍！サイクリストもいつも撮影して帰ります！



後ろを空けるとエイドステーションに早変わり！

4. プロサイクリスト監修！ビワイチマップ！



滋賀県では、『ビワイチプラス』をキーワードにビワイチだけでなく、内陸部へのサイクリスト誘導をPR！守山市でも、プロサイクリスト三船雅彦氏に監修を依頼して、守山市を発着とした推奨コース全6コースを提案するマップを制作！
⇒京阪神を中心に全国約200店超のスポーツ自転車店にて配布し、多数メディアでも紹介されています！（累計印刷部数6万部）

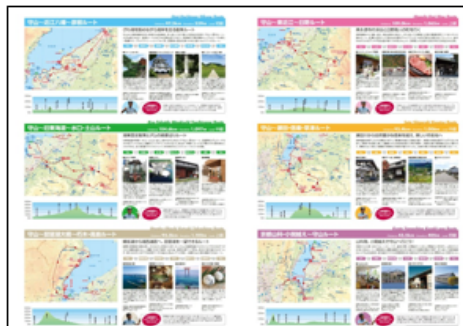


サイクリストの共感を得られる“仕掛け”がたくさん！⇒普及へつながる！

- ①持ち運びやすく、スマートフォンと同サイズ
- ②防水加工
- ③全コース三船雅彦氏の紹介動画付 etc

気配りが大事！

裏面ではおススメ施設も交えコースを丁寧に紹介！



5. ICTを活用したビワイチスタンプラリー！



NTT西日本のスマホアプリ「いまどこ+」を使用し、ビワイチを舞台とした「アプリ・スタンプラリー」イベントを展開。チェックポイントとなる施設や企業と連携を図る中、サイクリストのビワイチサイクリングを支援！

平成30年度：『瀬戸内しまなみ海道』と「ビワイチ」の連携による「アプリ・スタンプラリー」を実施！【全国初の広域ルート同士の連携イベントスタート】



実施時期 平成30年4月25日～8月31日
実施主体：本州四国連絡高速道路(株)・守山市
総参加者：約4,000名
※うち、しまなみ海道 2,200名
※うち、ビワイチ 1,800名

★ポイント！

- サイクリングの聖地「しまなみ」「ビワイチ」連携！
⇒**ルートの連携でサイクリストの達成感と満足度も向上**
- アプリを使って走行ルート案内するだけでなく、電子スタンプラリーによる「楽しさ」もアップ！
- 自治体間だけでなく、サイクリストにオススメの飲食、観光、宿泊施設など民間企業との連携も実現！

平成31年度は、さらに他のルート連携も検討中！

6. 関東圏から誘客！東京からのバスツアー！



JRバス関東、自転車専門誌大手「バイシクルクラブ」とタイアップし、平成30年11月から、全国初のラッピングを施したバスで東京発の夜行バスをつかった、「ビワイチバスツアー」を試験的に実施。

実施時期 ①平成30年11月2日(金)～4日②16日(金)～18日③30日(金)～12月2日の3行程
 乗車料金 一人38,000円
 ・ゲストライダーだけでなく、サポートスタッフ、ガイド等全て費用含み。オリジナルグッズももらえる！
 ・11月の運行を試験的に実施し、3月にも再度ツアー実施！

ツアーのポイント！

- 自転車輸送は、輪行不要（そのまま搭載可能）で便利！
- 長距離課題も、ガイド付き、サポート付きではじめてのビワイチも安心！



15 念願のビワイチに参加者は大満足！

7. ビワイチ・アワイチ！関西2大ルートで連携PR!



平成30年9月、全国においても自転車で盛り上がる関西！中でも人気の自転車ルート「ビワイチ」と淡路島一周「アワイチ」で共同チラシ・ポスターを制作！

⇒「ビワイチしたらアワイチを、アワイチしたらビワイチを」の実現のため、全国200以上の自転車店とサイクリング協会等に一齐配布。



アワイチマップは、平成30年8月に本市のビワイチマップのサイズ、防水加工、デザインを参考に改定！



ビワイチはNEXTステージへ！



キーワードは3つの『戦略的連携』！

国では自転車活用推進法が施行され、自転車は単なるブームでなく、新たな文化として認知されつつあります。この機会を活かし、ビワイチの強みを活かした取り組みで地方創生の目的である経済活性化につなげる新たなステージに！

その1 自治体間連携の強化

- 県内の連携：ビワイチ推進室が設置された県に加え、県内市町長へのサイクリングへの参画とビワイチ活性化への連携を働きかけ
- 琵琶湖河川事務所、滋賀国道事務所など国との連携もさらに強化
- 自転車まちづくりを推進する自治体による全国ネットワークの構築

その2 民間企業との連携の強化

- 自転車新文化を広めるGIANT社や市内・県内等の企業とさらなる連携
マリオットホテル（森トラスト）・たねや（ラコリーナ）・シマノ・ヤンマーHD・佐川HD・ワコールHD・滋賀銀行・近江鉄道G・ピエリ守山 等
- ICT（NTT西日本「いまどこ+」）・E-Bike等の新技術の活用
- 地域の銀行、企業と連携し、企業活動によるビワイチおもてなし環境整備
- サイクリング拠点併設の「道の駅」の検討

その3 広域連携によるPR, インバウンド誘致

- しまなみ・アワイチ、他のサイクリングルートと連携！
- 観光庁VJ（ビジット・ジャパン）事業に参画し、インバウンド誘致に向けPR！

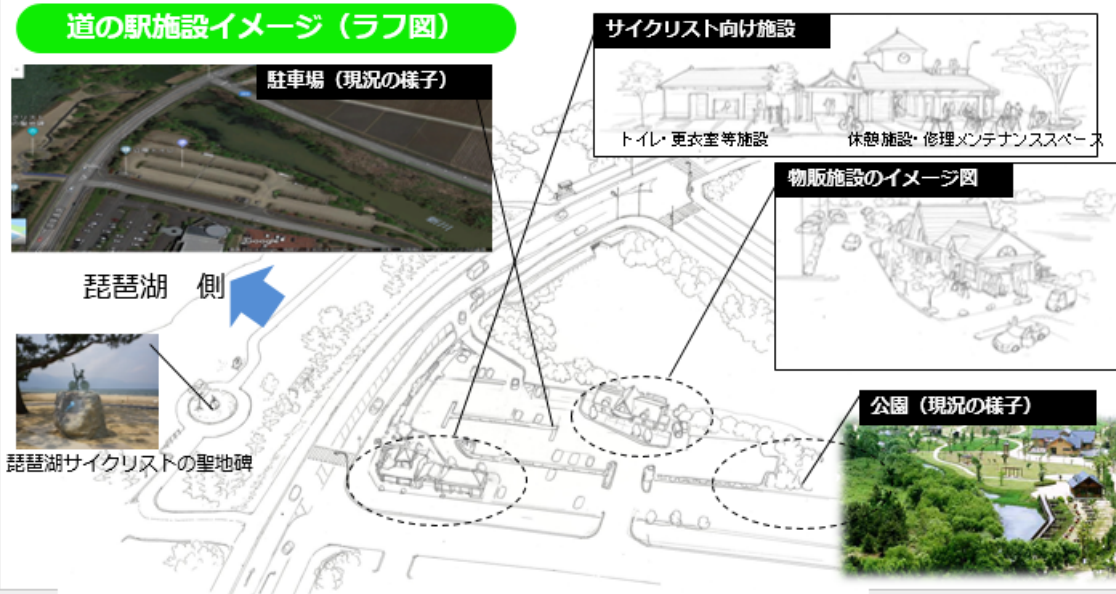
サイクリング拠点併設の「道の駅」の検討



自転車等で盛り上がる守山市湖岸エリアに新たな拠点施設として、サイクリング拠点併設の道の駅設置に向け、検討を開始！

⇒Park-PFIによる運営を検討中。道の駅の運営・活用の方法について、民間事業者から幅広くアイデア・意見を求めるサウンディング型市場調査を実施！

道の駅施設イメージ（ラフ図）





地域における自転車活用

～市民と共に自転車のまちづくり～

この補助金は
地方自治体では
なく、市の補助
事業です。

1. 自転車購入補助制度



主要な条件について

(1) 対象者

市内に住所を有すること、市税等滞納していないこと等

(2) 補助対象自転車、補助金額、条件など

- ①市内登録店舗から購入した新品自転車
- ②防犯登録、損害賠償保険加入を義務付け
- ③自転車安全整備士による整備がされていること

補助対象となる自転車

補助対象自転車	補助金額(率)	条件
幼児同乗用自転車	上限7,500円	申請時に満6歳未満の幼児と同居
シニア向け自転車	(20%)	申請時に満65歳以上
電動アシスト自転車	上限15,000円	—
スポーツ用自転車	(20%)	ヘルメット着用宣誓が必要 購入費用7.5万円以上

平成28年度：

制度利用者：290名（うちスポーツ自転車94名） 自転車販売総額：3,441万円

平成29年度：

制度利用者：206件（うちスポーツ自転車89台）、自転車販売総額：2,737万円

※平成29年度から地域内の事業者も補助対象者に追加！企業の申請も受付開始！

平成30年度：

制度利用者：219件（うちスポーツ自転車108台）、自転車販売総額：2,981万円

さらに、平成29年度からヘルメット購入補助制度も実施！

平成29年度： 65歳以上高齢者向け 31件

平成30年度： 65歳以上高齢者向け 17件 / 幼児・児童向け 23件（平成31年2月13日現在）

2. びわ湖守山・自転車新文化推進協議会

協議会設立の概要

平成28年6月1日に、「自転車によるまちづくり」と「自転車新文化」を展開し、自転車による健康増進、観光振興、経済活性化、環境にやさしいまちづくり等を実現することを目的に、行政、市民、企業らで設立！

運営のイメージ



毎月の定例サイクリング、ピワイチツアーを企画するなど、地域を巻き込みながら、行政ではできない様々な自発的な活動を企画・運営！

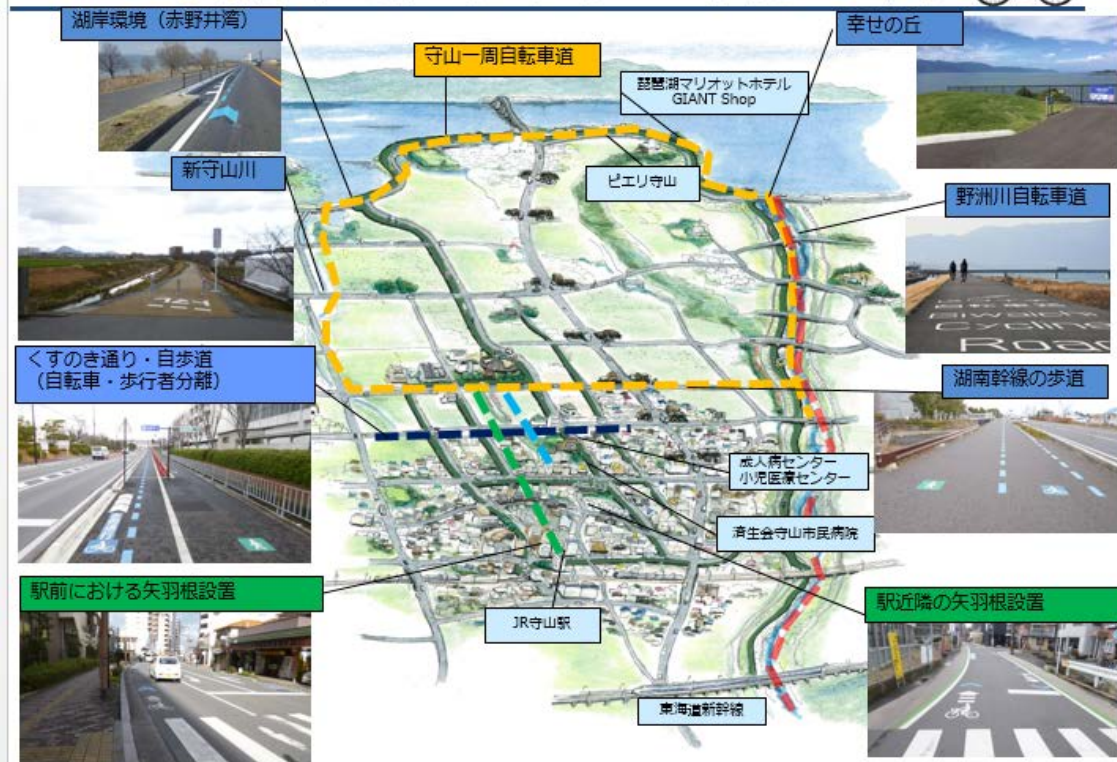
代表的なイベント！ モリイチ・スタンプラリー誕生！



同イベントは、各自好きなところからスタートし、市内10箇所のチェックポイントを好きな自転車で巡る守山市全土を舞台にしたスタンプラリー！

⇒
平成30年11月で3回目となるも、373名(昨年比+70名)が参加するなど、地域を巻き込み盛り上がりました！

3. 自転車で走りやすい環境づくり



4. 身近な自転車活用の促進



○路線バスと自転車の乗り換え拠点 (BTS : Bicycle Transit Station) 6か所

※スーパー学割定期券 (上限8千円・5千円) 等との取組みにより、バス利用者が大幅に増加



○JR守山駅の「駅りんくん」(JR西日本)の活用による自転車利用 (282台)

○JR守山駅前の自転車預かり所 (6箇所)



5. 地域にも広がる自転車の熱



地元警察署がサイクルポリスを結成し、きめ細やかな巡回!

滋賀県交通安全協会と共催の自転車安全教室



守山野洲川クリテリウムの開催 (約700名が参加)

市・消防署・警察と連携し、熱中症啓発!





自転車による観光やまちづくりを推進するためのポイント

1 安全対策

国・県・市町村が連携し、安全・快適に走ることができるよう走行環境の整備を推進するとともに、分かりやすい案内表示（ナンバー表示も含め）・ガイド養成も必要。

2 民間との連携による“おもてなし体制”

“地元ならではの！”の観光資源（歴史・自然）や美味しいグルメ等が体験（モノ・コト体験）できるよう、経済界や民間企業等と連携した取組みや新技術の活用（ICT・E-Bike）により、地元にお金が落ち、地域経済に繋がる仕組みが必要。

3 市民と共に自転車新文化のまちづくり

地域の理解を深め、通勤など地域の自転車利用もあわせて増やしていくことが必要！

4 国・都道府県・市町村の緊密な連携

国・都道府県・市町村がしっかり連携し、ハード・ソフト両面の取組みを進めるとともに、先進的・先駆的な取組や自転車関連施策の情報共有が必要不可欠。²⁶

2. 守山まるごと活性化の推進

- 守山市には、伊勢遺跡・下之郷遺跡、中山道、諏訪家屋敷、豊かな水環境など、豊富な地域資源が存在。
- 市内各地域の魅力ある資源を活かし、市民主体のまちづくりによる活性化を平成25年から進めている。これは「地方創生の先駆け」。
- 歴史・自然・生活など地域にある“たからもの”を生かした魅力的なまちづくりを推進。



大川親水ウッドデッキ



大庄屋諏訪家屋敷整備イメージパース

守山まるごと活性化プラン 5年間の取り組み(H26～30)

資料1

* Pはプロジェクトの略、(種)は継続するプロジェクト

受け継いできた自然・風土と未来を見つめる人が主役のまち

A 守山の北の玄関おもてなしP (種)

B 速野まるごと博物館P (種)

C ひろこ地域市民の森いきいきP (種)

D 大川周辺の自然環境保全&環境学習推進P (種)

E ふるさと文化を見つめなおし守ろうP (種)

F みんなで考えよう速野の未来P (種)

広報紙発行、まるごと活性化のPR、ヒアリングマップ作成

伝統文化を主とし、先人の暮らしの知恵を子どもたちに引き継ぐまち

A 新訪家数をはじめとする玉津の歴史・伝統文化活性化P (種)

B 赤野井酒P (種)

C 鹿の池産地消推進P (種)

D 玉津ホテル祭り・イベント推進P (種)

E 定住促進P (種)

地区計画の策定

人と水と歴史がつながる主成りのまち

B 新守山川移れ合い環境整備P (種)

C 水に育まれた小津の文化発見P (種)

人がつながり、自然と歴史を大切にすまちなち

A 自治会能力向上P (種)

B 守山の歴史・伝統文化再発見P (種)

C JR 東側活性化P

D 水とホテルから導くP (種)

野洲川とともに生き、野洲川とともに栄えるまち

A 野洲川河川敷・伏流水再生P (種)

B みんなの暮らし！中洲にきわいい活カ劇出P (種)

C 中洲を元気にするP (種)

D 安心して暮らせる公共交通を導くP

公共交通アンテナ施設、モーターカー提案書提出

「人をつなぐ」「四季をつなぐ」「たからものをつなぐ」未来につながるまちづくり

A 野洲川・法蓮川・田川の「水辺空間」施設P (種)

B 近江砂運活用P (種)

C 河内の「身近な魅力」情報発信P (種)

D 河内のみんなで「つながる」P (種)

E 健やか・安心・快適な生活環境創出P

高齢者買い物支援「かわにしの家事お助けリスト」作成

自然・歴史・文化を次世代につなげるまち

A 赤太郎を守ろうP (種)

B 歴史伝説中山道P

D 築りだ！わろしよいP

守山まるごと活性化プランの主な活動状況について

資料1-2

速野学区

- サイクリングイベント
- ふれあいフェスティバル
- 四季長遊園

玉井学区

- 漁業体験
- 歴史館ウォーク

小井学区

- フォントナスト
- 秋まつり
- 魚つかみ

守山学区

- 春賀秋太
- 伊勢温泉温泉
- 環境パラスポーツ水槍

后身学区

- つといに子どもサポーター
- イベント・たからものマップ

河西学区

- 河西地区情報マップ
- 徳岸花博覧会
- どろんこあそび大会

中洲学区

- 芋煮の出店
- 水のたむけ

その他の活動:

- 緑水公園あめんぼう
- 千手川長寿音楽

3. 水環境の改善・再生

<背景>

琵琶湖、赤野井湾、木浜内湖等で、オオバナミズキンバイの繁茂、外来魚による生態系のかく乱、水質悪化等の課題。

滋賀県民の念願であった、琵琶湖保全再生法（H27年9月）が議員立法により成立。

- ① 大川、新川等の水質浄化、目田川の環境維持・改善。
- ② 赤野井湾再生プロジェクトの推進、環境用水の復活。



2019年度 速野学区ふるさとづくりワークショップ

若者が見た 市北部地域の魅力

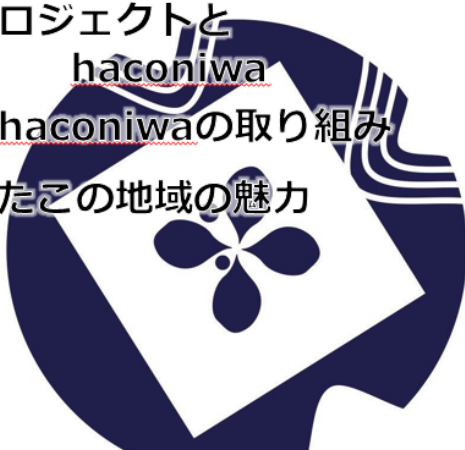
大川活用プロジェクト支援団体haconiwa
濱野 優貴（立命館大学経済学部4回生）



1. はじめまして。立命館大学経済学部4回生の濱野です。大川活用プロジェクト支援団体 haconiwa に所属しています。今日は「若者が見た市北部地域の魅力」と題して、報告をします。

本日のアウトライン

1. 大川活用プロジェクトと haconiwa
2. これまでの haconiwa の取り組み
3. 若者から見たこの地域の魅力
4. 参考・提案



2.



1. 大川活用プロジェクトと haconiwa

3.

大川活用プロジェクト



4. 大川活用プロジェクトは、スライドに挙げた複数の組織・団体によって構成されています。「守山丸ごと活性化プラン」の1つです。

大川とプロジェクトの沿革

1970年代	旧野洲川から護岸工事により分離 →以後、 水環境の悪化 が深刻に
2010年	大川活用プロジェクト 発足 目的：水環境の改善と「 里川 」としての復興 以降、宮本守山市長らが参画
2014年2月	第3回 大川フォーラム に三日月大造氏（現滋賀県知事・当時衆院議員）が出席
2015年夏	haconiwa 設立 「 夏休み大川自由研究室 」開催 ⇒以降、例年開催 毎日新聞、京都新聞等に取り上げられる
2017年4月	ウッドデッキ 完成 → 竹灯笼祭り 開催 式典には、武村展英氏（現衆院議員）らが出席
2017年5月	立命館守山中学校 中1総合学習「 琵琶湖学習 」TA開始
同年8月	学習支援 スタート
同年10月	立命館大学Sustainable Week参加

大川活用プロジェクトの目標



- ①大川の**水環境**を改善・維持する
- ②**子ども・家族・年長者**を結びつける

大川を「**里川**」として復興し、
大川を媒介に「**共同体**」の復興する

haconiwa創設のきっかけ

立命館守山在学中



科学的な研究

- 水環境の改善・維持に重心を置く

大学入学後



地域参加

- 卒業生を中心に結成
- 地域を結び付ける存在として



2.これまでのhaconiwaの取り組み

活動報告①春休み自由研究室

- 美崎地区内を散策しながら地域の生物や史跡でビンゴラリー
- 普段見過ごしがちな地域の自然や史跡(=魅力)の存在を認識
- 地域に対して愛着や興味関心を！



イメージ(昨年度春休み大川自由研究室の様子)



イメージ(昨年度参加した子どもが採取した薔花)

めは鳥を見てもただ鳥だとしか思わなかった子どもたちが、終わるころには名前のわからない植物を採集し後で調べると言うまでに味を持ってくれました。

7.

私は、立命館守山高校在学中、科学部に所属していて、その時から大川を舞台に、実験・研究をしてきました。大学に入ってから、立命館守山の卒業生を中心に、環境学習を通して地域を結びつける活動を始めました。

8.

若者から見たこの地域の魅力をお話する前に、まずは、これまでの haconiwa の取り組みをまとめます。

9.

[発表者]正木泰斗

私たちの団体では年に数回地域の方々のご協力とご支援をいただきながら子供向けのイベントを企画、運営しています。昨年の春休みには春休み自由研究室として、学習支援の他に美崎地区の史跡や生物をチェックポイントにして美崎地区内でビンゴラリーを行いました。はじめ

活動報告②5月工作教室

- 手作りペットボトルロケット、
プラ板の制作
- 手作りロケットの飛ばす距離で競争



@美崎自治会館



きも強いですが。今年度は今回だけしか連携をとれなかったのですが去年は夏休み自由研究会などにも協力してもらいました。一回生からすると初めてとなる企画だったので自治会の方々の協力の多さにただただ驚いていました。

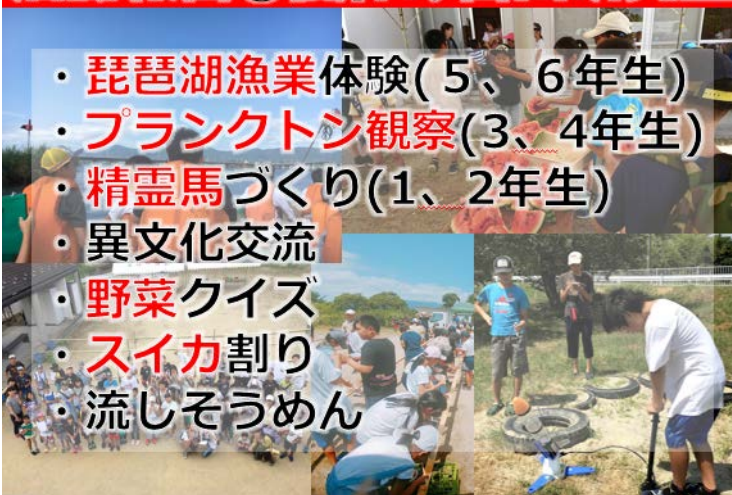
10.

[発表者]田中颯太

僕たちは5月の末に美崎自治会館で工作教室を開催しました。内容は手作りペットボトルロケット、プラバン作りの2種類あり分かれて活動しました。ペットボトルロケット制作の過程では立命館守山高校の科学部の学生達がわかりやすく原理の説明などをしてくれるなど高校生との結びつ

活動報告③夏休み自由研究室

- ・ 琵琶湖漁業体験(5、6年生)
- ・ プラクトン観察(3、4年生)
- ・ 精霊馬づくり(1、2年生)
- ・ 異文化交流
- ・ 野菜クイズ
- ・ スイカ割り
- ・ 流しそうめん



11.

[発表者]松垣俊介

夏休みには学年ごとに分かれて様々な企画を行いました。どの企画も子供たちはとても楽しそうでした。

漁業体験はもちろんのこと、流しそうめんの竹、スイカ割りのスイカ、精霊馬の野菜とどれもこの地域で育った、この地域にあるものを利用して

います。
私の生まれ育った大阪ではこれの全部を体験することはそう簡単ではなく私自身もとても楽しかったです。

活動報告④ 竹灯籠祭り

- 河原の竹林を活かした灯籠づくり
- 年長者の方や子ども達による絵付け
- 民生委員さんによる江州音頭の伝承



子ども達と江州音頭の練習



火を灯した竹灯籠

だき、子ども達や私達大学生も練習しました。私が育った地域にはこのような「地域の盆踊り」を伝承していただく機会がありませんでした。速野学区では地域の文化を伝えていくという活動が現在も続いており、いいなと思いました。

12.

[発表者]柳田直哉

8月下旬には竹灯籠祭りを開催しました。地域の方々に竹を切っていただき、その竹に子ども達や年長者の方が絵付けをしました。

絵付けをした竹にろうそくを入れ、火を灯しました。非常に趣深いものでした。

この日の午後には民生委員の方に「江州音頭」を教えていた

活動報告⑤ 冬休み自由研究室

- 手作りのすごろく、紙飛行機、羽根つき
- 燻製体験
- プラネタリウム見学



羽子板作り@美崎自治会館



燻製体験@自治会館横のグラウンド



すごろく作り@美崎自治会館

13.

[発表者]水野淳太

午前中に冬休みの宿題をこなした後、昼食後に美崎自治会館の子どもたちと一緒にすごろく、紙飛行機、羽根つきを作成して遊んだ。そのほかには、初めての試みとして、段ボールを使った燻製を行った。自分たち学生、子どもたちともに楽しめていて、良い体験だったと思う。

イベントの最後には、琵琶湖マリオットホテルに隣接しているデジタルスタードームほたるの皆さんにも御協力いただき、子どもたちとプラネタリウム鑑賞をした。

*自身の発表の最後には去年おこなった「大川ウッドデッキから星を観る」のイベントについても少し話をした。

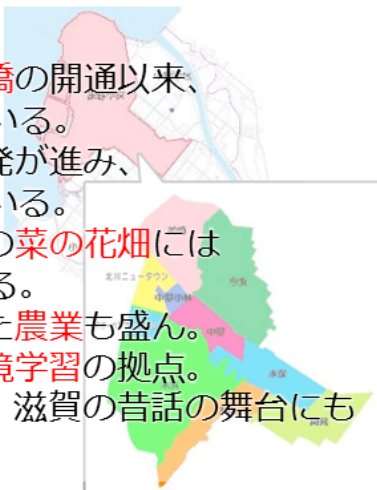


3.若者から見た この地域の魅力

守山市北部地域

速野学区

- 昭和39年の琵琶湖大橋の開通以来、北の玄関口となっている。
- 湖岸を中心に宅地開発が進み、年々人口が増加している。
- 自然に恵まれ、湖岸の菜の花畑にはたくさんの方が訪れる。
- 琵琶湖の水を利用した農業も盛ん。
- みさき自然公園が環境学習の拠点。
- 「お満灯笼伝説」等、滋賀の昔話の舞台にもなっている。



若者から見た地域の魅力

1

人の魅力

- 若者を受け入れていただける雰囲気
- 子どもが多い
- 年長者の皆さんが元気

2

モノの魅力

- 自然、産業（農業など）、文化施設（プラネタリウム、自然公園）

3

制度の魅力

- 行政の皆さんのご支援・ご協力
- 自治会活動が活発

次に、先ほどもお話ししたように、自然環境に恵まれ、美崎公園に代表される環境学習設備も充実していることです。さらに、自治会の活動が、まさに今この場のように盛んで、しかも行政もそれをサポートして下さる環境も魅力だと思います。

14.

では、こうした取り組みを行ってきた私たちが考える、この地域の魅力をお話します。

15.

まず速野学区の特徴としては、スライドに挙げたようなことがあると思います。特に、人口増加が進み、若い家族が多いこと、自然環境に恵まれていること、農業が盛んであることが特徴的だと思います。

16.

私たちが思う速野学区の魅力は、こちらです。まず、若者の私たちを受け入れていただける雰囲気が大きいと思います。この地域出身であるわけでもない、大学生の私たちが様々な取り組みをするのを、地域住民の皆さんが受け入れてくださることがありがたいと思います。

若者自身が考え、実践する

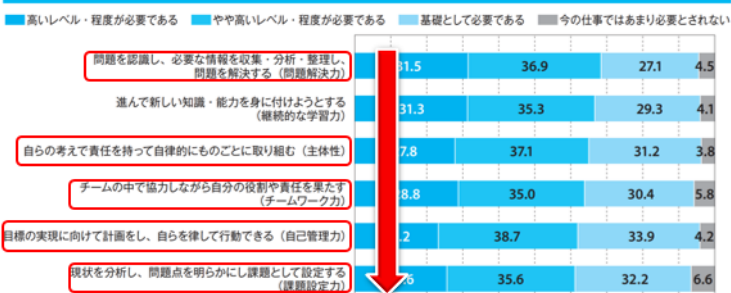
滋賀県環境学習推進計画 基本目標

「いのち」に共感して
自ら行動できる人育てによる、
持続可能な社会づくり

主体的・自主的に考え、実践する
「場」が求められている

学生に対する社会的ニーズ

図1 仕事をするに当たって、次の能力・スキルはどの程度必要とされるか (社会人1-3年目 n=1732)



社会が若者に求めているスキルは
地域参加によって磨くことができる

まとめ

- 速野学区の魅力は
自治会活動が盛んなところ
- 若者にとっては、
実践して学べる“場”
- 全く新しいことを始める必要はない。
今あるもの・取り組んでいることを
組み合わせたり、工夫して活かせば、
それだけで新しい！

17.

実は、滋賀県全体の教育の指針として、自ら行動できる人育てが掲げられています。

若者には、主体的・自主的に考え、実践することが求められていますが、そのなかで、挑戦する「場」が必要だと感じます。

やってみたい思いがあっても、思う存分に社会で活動する「場」がないと、行動に繋げることができません。

18.

これは、社会人3年未満の若手社員が、「仕事をするにあたって、必要だと考えるスキル」を挙げたアンケート結果です。こちらに示したように、自ら行動する力、チームワークに取り組む力、課題を解決する力などがありますが、まさにこれらは、地域活性化を实践するなかで培われていくものです。逆に言えば、実践することができる場として「地域」は、若者にとって必要不可欠なのです。

19.

まとめると、スライドのようになります。

20.



4.参考・提案

(提案) 農業体験

- 米作り体験→地酒造り？
- 田んぼの生き物観察も
- 「子ども農園」→収穫した野菜を販売



イメージ写真 農産物産地大川自由研究部の様子



イメージ写真 <http://www.yamaguchi-u.ac.jp/~stam/industry/200/>より

21.

地域の休耕田・畑を活用して、農業体験を子どもたちにさせてあげられないかと考えています。地域からボランティアを募って、普段の農作業を行い、子どもたちは、田んぼの生き物観察や成長記録、収穫祭、収穫後の緑肥の栽培（ヘアリーベッチ、レンゲソウなど）なども行います。緑肥の栽培は、観光資源として地域のシンボ

ルにも活用できると思います。また、大人の農業体験として、コメを作り、その米を使った地酒づくりも、近年の法整備で可能になったと聞きます。琵琶湖の美しい水も活用し、日本酒生産を行うこともできるのではないかと思います。畑の収穫物は、自分たちで食す他、ウッドデッキで定期市を行って販売したり、子どもたちがレシピを考えて弁当を創ったりします。そのほか、地域のボランティアで収穫物を使った小料理屋などを、期間限定で行えれば面白いと思います。

(提案) 空き家民泊

- 空き家を利用した宿泊施設
- ターゲットは幅広く**若者、外国人**
- **ピワイチ**と連携した**地域活性化**



イメージ
<http://bit.ly/2Dsam5o>

一番の利点は周りに気にすることなく宿泊することができる点です。

またピワイチの連携という視点からは、遠方からの旅行客が民泊を利用し、次の日の朝からピワイチを行ってもらおうということが一つの形としてあってもいいのではないかと考えました。

22.

[発表者]田中颯太

京都に友人と遊びに行ったときに利用した制度だったのでこれがなかなか楽しくいい経験だったのでぜひピワイチなどと連携も含め行ってみたらおもしろいのではないかと思います。家を丸々一棟貸し出すことによりホテルなどの宿泊施設とは違うメリットが生まれます。

(提案) はやの祭@親水デッキ

- 速野学区の方による**地産品販売**
- 有志の方による**音楽会・踊り**など
→夕刻には**灯籠**を灯す
- **速野小学校生徒**による出し物も



イメージ(2018年 秋のまつり 徳川にて)



イメージ(2017年 デッキイベント)

小学校生徒さんによる合唱やミニ競技会などの出し物も加わると良いと思います。

毎年の恒例行事になれば徐々にイベントの認知度が上がり、守山市北部地区のさらなる活性化につながるでしょう。

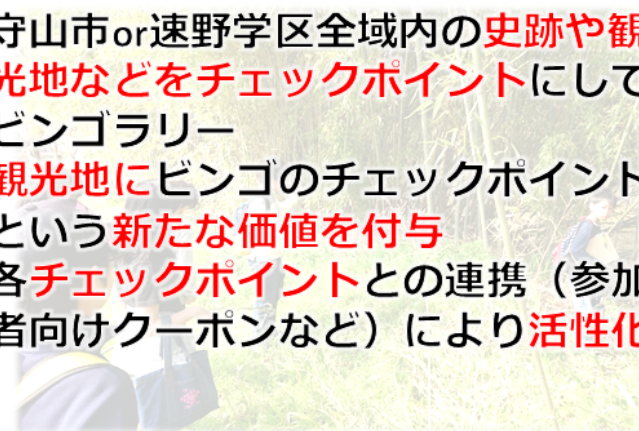
23.

毎年恒例行事「はやの祭」を大川親水デッキで行うことを提案します。

親水デッキ付近には宿泊施設・商業施設・なぎさ公園などがあり、外部から観光に訪れた人々も立ち寄りやすいと思います。速野学区の方々による地産品販売や演奏会・踊りなどを行うと、祭りを盛り上げることができると思います。また、速野小

(提案) 守山ビンゴラリー

- 守山市or速野学区全域内の**史跡や観光地**などを**チェックポイント**にしてビンゴラリー
- **観光地**に**ビンゴのチェックポイント**という**新たな価値**を付与
- 各**チェックポイント**との**連携**（参加者向けクーポンなど）により**活性化**



イメージ(昨年度豊後み大川自由研究の様子)

ブームにより全国各地でウォークラリーが開催されており、大盛況です。是非守山市や速野学区でも行われると良いかと思えます。ラリーの開催により、商業施設や観光地に対しあまり手間をかけずにラリーのチェックポイントであるという付加価値を与えることができるため、来客数、売上の増加が見込めます。加えてチェックポイントになっていなくても道中の飲食店や小売店の売上も増加が見込めるため、地域全体に恩恵があります。また、可能であれば商業施設や観光地との提携等によりラリー参加者限定のクーポンなどの発行、特別公開などを行っていただくことも、ラリーに参加するメリットも増えることになるので良いと思えます。行政の方で行うべきことはラリーの広報とチェックポイントの選定、ビンゴ用紙もしくはウォークラリー用紙の作成など、そこまで多くありませんし、観光地や商業施設の方も売り上げや集客数増につながるとなれば協力していただきやすいかと思えますので、地域産業振興のためには比較的手軽でよいと思えます。

24.

[発表者]正木泰斗

私から守山市、速野地区の振興策として、守山市ビンゴラリーまたは速野学区ビンゴラリーを提案したいと思います。これは守山市もしくは速野学区内の史跡や自然（生物や景観など）、商業施設をチェックポイントとして行うビンゴラリーまたはウォークラリーを想定しています。昨今の健康

参考例1：名鉄ウォークラリー

- 駅をスタート地点として決められたコース上の観光施設などを一日でめぐ
- 最近の健康ブームによりウォークラリーが人気
- 普段よりも観光客が増加

25.

参考例2：名鉄ポケモンビンゴ

- 名鉄線の駅に配置されたポケモンスタンプを集めビンゴを完成させる
- ビンゴのために多くの親子が鉄道を利用
- 名鉄では参加者に向け、一日名鉄乗り放題チケットを発行

26.

(参考) 富士宮高校会議所



- 富士宮市内5校の高校生が連携し、**高校生の視点で地域振興を実践**
- 学習意欲の増進と共に、**地域における人材育成が目的**
- 昨年には**日本高校会議所**が設立
→全国各地に広がりつつある

27.

(濱野) これらは参考です。

私は高校生が地域活性化に参画していくことが必要だと考えています。若い力として、高校生の持つ潜在能力はとて大きいと思うからです。

こちらは、静岡県富士宮市の実践で、「高校会議所」という組織を複数の高校間で結成し、市と協力して、地域振興に取り組むものです。

(参考) 鯖江市役所JK課



- 福井県鯖江市で2014年に開始された市民協働推進プロジェクト
- 地元の女子高生が中心
- アプリ開発やスイーツ商品企画など、地元企業・団体と連携して1年間で20以上の企画や活動を実現

28.

また、福井県鯖江市では、市役所に「JK課」という部署を設置し、そこで市内の女子高生が若者の視点から、地域活性化の政策を提案・実施する取り組みを行っています。

アプリの開発やスイーツ商品の開発、移住喚起の取り組みなどを、独自の視点で行ってきました。こうした政策のように、いっそう若者の力を利活用し地

域を振興していくことができると思います。

速野学区ふるさとづくりフォーラム グループ討議 まとめ

●A-II 「まちづくりをより活発にするためには！」[発表者]水野淳太

自分たちのチームでは、「はやのの森探検隊」を運営している自治会の人や、自治会のトップの方、ホテル育成などいろいろな所に顔を出してサポートしている方々などいろいろな人が来てくれました。

話し合いはブレーストーミング形式で行われ、いろいろ案を出しながら、最終的に、5つの項目、自然、新イベント、インフラ整備、自治会が持つ課題、町作りの担い手作りに分けました。

このテーブルで一番の焦点となったのは、これら全ての項目が最終的に仲間作り、人材育成に関わっているということでした。

自然を残していくためにも、新イベントを開催するにも、インフラ整備を行うにも、抱えている身近な問題を解決するにも、今後、主役となる子どもたちに知ってもらい、経験してもらい、自分たちで、自分の頭で、考えて、答えを出し、実行に移していく。これこそが一番の解決策ではないか？という結論に至りました。

補足ですが、このような話の流れになったのは、討議をしてくださった方々のほとんどが60歳代であり、後継者を探さなければいけないと思っていらっしゃるのかもしれない。討議中、皆さん、自分の年齢と比べて驚いておられました。

自分がグループ討議の最後に出した結論は、付近の小、中学生と地域の方々との交流を今よりもっと広めるということでした。小学校まではより多くの地域活動があったのに、中学生になった途端になくなってしまう…。これではあまりに意味がないのではないかと訴えかけました。自我をより持ち始める中学生の時にこそ多くの地域活動を行うべきだと思います。

●B-I 「地域で子どもたちの育ちを応援するためには！」[発表者]正木泰斗

まず子どもたちに関して、最近ゲームばかりしている、外で遊ばなくなったということが問題点として挙げられました。また、いじめや引きこもりなども問題だという意見が出ました。次にこれらは何が原因かということを考えました。そしてこれは孤独や孤立、すなわち子供たち同士、子供たちと地域のつながりが希薄化、消滅していることが原因だと考えました。ここで子どもたちに関して、彼らは機械があれば積極的につながろうとしている、自然に交友の輪を広げているという事実があることが分かりました。つまり人と人とのつながりが、つながる場がないせいではないかということが原因であろうということになりました。実際、ボール遊びが禁止の公園が増えているなどして遊び場、はしゃげる場が減っているということが分かりました。また、小学生に対して特に中学生、高校生は時間がないなどの事情もあり地域や地域の人とのつながりが薄れやすいということも確認されました。これらの問題に対して、私たちのグループではより積極的なイベント等の開催およびその企画に中高生を運営側として巻き込むことで解決できないかと考えました。中学生を巻き込

むことに関しては、中学校の総合学習の時間に組み込んでもらうなどしてもらうのが最も効果的と考えられたため、自治会から中学校への働きかけを行っていこうということになりました。また、企画の回数を増やすことに関しては、より多くの大学からより多くの大学生の協力や参加が得られれば可能であろうということでした。したがって、私たち大学生が大学生同士のネットワークを通じてより多くの大学生や学生団体の参加を呼び掛けていこうということになりました。高校生を巻き込むことに関しては、私たちのグループでは見つけることが見つかりませんでした。さらに、別の視点として、子どもに関する問題は親御さんたちも無関係ではないとして、親御さんたちに関しても問題が提起されました。子ども同様に親も悩み、孤独や孤立に苦しんでいるであろうことが分かりました。虐待などこれらの問題を解決するためには親御さん同士や親御さんと地域の人たちを結び付け、相談などができるようにする、親御さんが外に出る機会を作ることで解決できないかと考えました。親御さんたちも子どもたちと同様につながる場さえあればつながろうとしていることも分かったからです。私たちにできる解決策としては、自治会の方で積極的に特に乳幼児を抱えた親御さんに向けた相談会などのイベントを行うことができるのではないかと結論に至りました。

●B-II 「地域で子どもたちの育ちを応援するためには！」 [発表者]濱野優貴

B-II テーブルでは、「地域で子どもたちの育ちを応援するためには」というテーマで討論を行った。参加者は、滋賀銀行の方を含む地域住民4名に、大学生を加えた5名であった。

最初、自己紹介シートを使って、地域とのこれまでのかかわりや思いを各自順に話していただいた。その際、机に広げた模造紙に、ペンで自由に感じたことをメモ書きした。模造紙に直接自由にメモを書くことで、話し合いを可視化し、またメモを書くことのハードルを下げることをねらった。

その後、それまでの自己紹介の際に出た意見をベースに、これからどのような取り組みができるか？について話し合い、最後の10分程度で、新しい模造紙にその内容をまとめた。

特徴的だった意見は、「住民がすでに取り組んでいることを活かすことが大切」という点だった。やはり、新しいことにこれから取り組むとなると、ハードルが高い。既に行っていることを組み合わせることで、十分価値があるという点は、haconiwaの事前プレゼンに着想を得た者だった。

また、拠点の整備が必要との声も多かった。後に詳述するが、地域の憩いの場として、ミニ図書館を整備する等があがった。

加えて、各自治会が垣根を越えて、交流できる場の整備が必要との声も多かった。これは、haconiwaの提案にあった、ウッドデッキを活用した定期市などのことで、自治会を超えて、同じ場に繰り返し集まることで、各自治会の活動をお互いを知ることができ、信頼もいっそう深まりやすくなるのではないかとということであった。

実際に出たアイデアには、次のようなものがある。

第一に、小さな図書館を整備することだ、市立の大きなものというよりも、地域に密着したものを想定している。そこで、子どもたちと住民が交流する場面（語り、紙芝居、料理教室、子ども農園など）をつくり、小中学校とも連携する。

また、地域の伝承などをまとめて、地域文庫を整備する。上述の図書館に蔵書すればよいのでは？という意見があった。

続いて、中高生の地域イベント参加を促すためのボランティア登録制度が提案された。小学生は、各自治会のイベントに子ども会を通して募集できるので、よく参加する。一方で、中学生以上になると、交流の機会が減る。そのため、自治会を超えて、小学校区全体の中高生の登録制ボランティア制度をつくり、各自治会でイベントがあるときに、メールや LINE @ で呼びかけ、ボランティアスタッフとして来てもらう仕組みを整えたい。申し込みも Google フォームなど、ネット上で済ませることができれば、中高生が気軽に参加できるようになるだろう。また、このとき、社会福祉協議会などを通して、図書券など、学習に活かせる形での謝礼も支払うことも、公的な登録制度であれば、それも可能ではないか。

繰り返しになるが、手作り市など、各自治会の枠組みを超えて、一挙に集い、互いに交流する機会を定期的に作るとよいのではないかという意見もあった。これは、今すぐにでも実現できることだ。

●C テーブル「地域の産業、企業そして住民が連携するためには！」

[発表者]田中颯太

まずテーマにあることを行うために、速野の魅力や足りないところを上げていきました。この部分を認識、共有してから連携などを考えた方が多くの案が出ると考えたからです。数多くのいいところが出てきてそれらを分類していくと以下のように負けることができました。1. 人の魅力、2. 人が集える施設、3. 自然、4. 産業、の4つに分類しました。特に注目した点は「1. 人の魅力」でした。「1. 人の魅力」では住民の積極性や新しいことを受け入れる体制など人と人とのつながりの部分でした。これにつながるのが「2. 人が集える施設」になってなぎさ公園、美崎自然公園などをはじめ地域に根付いた施設、外の観光客向けのホテルなど多くがあげられました。3. 4. は関係が深く琵琶湖をはじめとする水産系のものから特産品のメロンなど農業も活発でした。

このようなことを踏まえてテーマにあるようことを行っていくことは、地域活性につながってくると考えました。出てきた案の1つに例年行うイベントを実施するということが出てきました。1つの聖地化を目指すということです。その企画を行う担い手として白羽の矢が立てられたのが大学生でした。ノウハウを持つ大人（市や自治会の方々）が支えたり駄目だしをしながら共に企画を行っていくことで人手不足の解消と未来の担い手の育成の両方が同時にできるのではとなりました。

[発表者]柳田直哉

速野学区にはたくさんの魅力がありますが、現時点では「PR 不足」ではないかという

意見がありました。速野学区の魅力をさらに外部に発信していく必要があるということです。まず、速野学区の魅力をPRするためには、様々な要素を一つに集結させなければなりません。そのためには速野の豊かな自然や既存施設、地場産業、そこに住む人々を結び付けるための「場」が必要だということです。このような「場」をつくるのが、魅力の発信や再確認になるのだと思います。「場」をつくるということはイベントを行うことです。イベントを企画・運営するには「担い手」が必要であり、大学生のような「若者」に担ってもらうのがふさわしいという意見になりました。

私たち大学生は美崎地区で現在、様々なイベントを企画・運営させていただき、多くを学んでいます。しかし、私たちは未熟であり、分からないこともあるのですが、自治会の大人の方々にサポートしていただいています。そして、さらに守山市などの行政が後ろで支えてくださっています。すなわち、速野学区を活性化するためには若者が担い手となり、自治会の大人の方々が支え、さらに後ろで行政がサポートするという形が大切だということにまりました。

おわりに

大川活用プロジェクトは、開始から 10 年近くが経過しました。大川の水質改善を目的にはじまった住民主体の活動は、美崎子供会、立命館守山高校、美崎自治会、市役所などの協力を得て、「夏休み大川自由研究室」という新しいタイプの地域の「まつり」を開始し、それが定着しはじめています。立命館守山高校の高校生として参加していた皆さんが中心となり、立命館大学学生団体として大川活用プロジェクト支援団体 **haconiwa** が設立され、近年は、夏休みだけではなく、四季を通じて、様々な子どもたちの参加型アクション・ラーニング・プログラムを立案・運営してくれており、大川活用プロジェクトの大きな特徴となっています。詳しい内容は、ぜひ、本文を見ていただきたいと思います。美崎の住民の方々の熱意が子供会や大学生たちに伝わり、活動が大きく発展してきているのだと確信しています。

大川活用プロジェクトは平成 30 年度の総括として、「速野学区ふるさとづくりワークショップ」の開催を支援しました。大川活用プロジェクトが築いてきた地域住民、子ども会、大学支援団体、市役所などとの協働モデルの活動の展開を通じて、歴史的、地域的にも深いつながりをもってきた大川流域の「速野学区」の活性化に貢献できればという美崎の皆さんの願いの表れでもあります。速野学区の活性化に大川活用プロジェクトを位置づけ連携していこうという、大川活用プロジェクトのさらなる展開へのステップだと位置づけることができるでしょう。そのためにも、ワークショップでの発表を活動記録として報告書にまとめておくことは大変重要となります。私たち編集者は、そのお手伝いをできたことを嬉しく思っています。

最後になりましたが、ワークショップでの発表者、参加者の皆さん、そして本報告書の執筆者の皆さん、美崎自治会、子供会をはじめとする住民の皆さん、**hakoniwa** の皆さん、市役所、速野学区ふるさとづくり委員会、速野学区自治会長会、立命館守山高校など関係者の皆さん、記して感謝いたします。また、この報告書を手にとられた皆さん、大川活用プロジェクトに今後とも関心を抱いていただき、ご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

安藤和雄（編集者を代表して、2019 年 3 月 24 日記）



大川親水デッキ

発行日 平成 31 年 3 月 31 日
発行 大川活用プロジェクト
滋賀県守山市今浜町 2761-35
電話 : 077-585-1019
メール : (守山市役所) miraiseisaku@city.moriyama.lg.jp
編集 安藤和雄・内田晴夫
出版協力 京都大学東南アジア地域研究研究所、守山市役所